

インフラツーリズム

拡大の手引き

— 試行版 —



宮ヶ瀬ダム (神奈川県)			苫田ダム (岡山県)
			川治ダム (栃木県)
(仮称) 気仙沼湾横断橋 (宮城県)	津軽ダム (青森県)	明石海峡大橋 (兵庫県)	
首都圏外郭放水路 (埼玉県)		尾原ダム (鳥取県)	休山トンネル (広島県)
第二海堡 (千葉県)			ハッ場ダム (群馬県)
小谷村防犯堤群 (長野県)			

目 次

	はじめに	1
	手引き活用のポイント	2
	口 絵	3
1	現状と課題	5
	1 現状	5
	2 課題	6
2	インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて	7
	1 拡大に向けた考え方	7
	2 全体のレベルアップでインフラツーリズムを拡大	9
	3 拡大への取り組み	10
3	インフラツーリズム拡大の「勘所」(かんどころ)	11
	1 「勘所」の概要	11
	2 「勘所」の使い方	12
	3 人を呼び込むための工夫	13
	4 人を受け入れるための工夫	21
	5 持続的に展開するための工夫	26
4	先進事例の取り組み	32
	ハッ場ダム(群馬県)	33
	鬼怒川上流ダム群(栃木県)	35
	首都圏外郭放水路(埼玉県)	37
	宮ヶ瀬ダム(神奈川県)	39
	国道289号八十里越(新潟県・福島県)	41
	天ヶ瀬ダム(京都府)	43
	明石海峡大橋(兵庫県)	45
	中国技術事務所+国道185号 休山トンネル(広島県)	47
	小谷村砂防堰堤群(長野県)	49
	第二海堡(千葉県)	50

はじめに

インフラへの理解を深めていただくため、従来から施設管理者や工事関係者は、土木広報として現場見学会を行ってきました。現場見学会では、普段入れないインフラの内部や、今しか見られない工事の風景など非日常の体験ができるため、近年では「インフラツーリズム」として、インフラの観光資源としての活用が注目されており、各地で実施しています。

また、観光産業を我が国の成長に資する基幹産業とするため、政府全体で取り組む中、国土交通省では 2016 年からインフラツーリズムを紹介するポータルサイトを立ち上げ、広く魅力を発信しています。

インフラツーリズムに取り組み 5 年が経過し、多くの来訪者を集める魅力的なインフラも増えてきていますが、一方で魅力を十分に活かしていない施設もまだ多くあります。

また、頻発化・激甚化する災害への対策が求められるなか、インフラについてより一層理解していただくことが重要であり、広報の手段のひとつとして観光で楽しみながら意義を伝えていくことが必要です。

このため、2018 年 11 月に「インフラツーリズム有識者懇談会」を設立し、インフラを観光資源として活用するインフラツーリズムを、付加価値を高め、地域や民間と連携した新たな段階に育て、展開していくために必要な方策について、幅広く議論を進めてきました。

本書は、これらの議論を踏まえ、インフラツーリズムを推進している先進事例からインフラの魅力を引き出す工夫を学び、その工夫点を「インフラツーリズム拡大の手引き」として取りまとめたものです。

インフラは、日常の生活や経済活動を支えているだけでなく、観光資源として活用できる地域固有の財産です。

この手引きが、国土交通省をはじめとするインフラの施設管理者と地域の方々が連携し、地域に人を呼び込み地域活性化に寄与できるインフラツーリズムを育てていくための参考となることを願っています。

手引き活用のポイント

本書では、インフラツーリズム拡大のポイントを紹介している。現場での取り組みの中で課題となる以下のような点を踏まえて、課題を解決していくために各施設でどんな取り組みから始めていけばよいか、手引きを参照し活用していただきたい。

(1) 土木広報を基本に魅力的なインフラへ (→P7へ)

インフラツーリズムの基本的な考え方は、「インフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景などの非日常を体験するツアーを展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すもの」である。

今までの土木広報で行ってきたように、「インフラへの理解を深めていただく」点を中心に、インフラがもつ魅力を高め、観光資源のひとつとして地域活性化に役立てていくことが、インフラに求められている新たな役割である。

見学対応を施設管理者以外が行う場合にも、インフラの役割や必要性を来訪者に説明できるように事前に説明用シナリオを考えておくことが望まれる。

(2) 施設の見せ方や説明の仕方への工夫 (→P13へ)

魅力的なインフラとして感じていただくためには、例えば非公開部分等を見せる際に、詳しく知りたい人には構造が詳しく分かる部分を、一般の方々にはインフラの迫力が感じられる部分を案内するなど、見せ方を変えることでより満足度を向上させる工夫ができる。また説明の内容も、インフラに興味を持つマニア向けと一般向けとに分けて、興味や理解度にあわせて説明や資料を用意することもインフラの魅力度を高めることにつながる。

また、地域の歴史や地形とともにインフラの役割や意義を説明することで、インフラへの理解が深まるうえ、地域の魅力も伝えることができる。

さらに、説明の話術が上達すると、聞き手となる見学者の知的好奇心を刺激し、同じインフラを見ていてもより魅力あるインフラと感じさせる力となる。

(3) 怪我無く実施するための安全性確保 (→P21へ)

インフラは、もともと観光用に造られた施設とは異なり、一般の方々の安全に案内するには特別な注意が必要な場合がある。

そこで、見学ツアー等では事故を回避する対応策をとるとともに、保険への加入の必要性や階段などの昇降があることを事前に周知するなど、参加条件に明示しておく必要がある。

(4) 地域との連携強化による地域活性化 (→P26へ)

この手引きで目指すインフラツーリズムでは、基本的な考え方のひとつとして、「地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与すること」を挙げている。

そこで、インフラに来訪した方々に周辺の観光資源も楽しんでもらうため、周辺地域の観光資源もあわせたパンフレットを作成したりイベントを実施するなど、地域と連携した企画を実施していくことが効果的である。



民間運営見学システムで受け入れ枠を拡大
(首都圏外郭放水路・埼玉県)



宇治市街地に近いダムを観光資源として活用
(天ヶ瀬ダム・京都府)



工事現場見学と周辺資源の組み合わせで魅力UP (国道289号 八十里越・新潟県・福島県)



ブリッジワールドを支える徹底した安全管理
(明石海峡大橋・兵庫県)



水陸両用バスの案内人がダムの監査館を案内
(湯西川ダム・栃木県)



定期的な“観光放流”を情報発信
(宮ヶ瀬ダム・神奈川県)



ダム建設中の多彩な見学ツアーで魅力UP
(ハッ場ダム・群馬県)



複数のインフラを組み合わせるツアーの魅力UP
(国道185号 休山トンネル・広島県)



地元のエコツアー会社がキャットウォークを案内
(川治ダム・栃木県)



自然豊かなダム湖で水陸両用車を体験
(津軽ダム・青森県)

1 現状と課題

1 現状

「インフラツーリズム」という概念は、ダムや道路などの社会基盤土木施設であるインフラを観光資源のひとつとして活用し、魅力ある観光地域づくりを進め、地域経済の活性化や雇用機会の増大につなげていくものとして、2013年6月にとりまとめられた「観光立国実現に向けたアクション・プログラム（観光立国推進閣僚会議・主宰：内閣総理大臣）」の中で示された。

国土交通省では、インフラツーリズムを紹介するポータルサイトを2016年に開設し、広くインフラツーリズムを楽しむための情報提供を実施している。

インフラツーリズムポータルサイトに掲載された現場見学会数は、季節変動はあるものの、概ね年間を通して300件ほど開催されている。

また、インフラの管理者と旅行会社等とが調整し民間事業者が催行する民間ツアー数は、年々増加しており、ポータルサイトを開設した2016年度と比べ2018年度は3倍に増加した。

インフラツーリズムポータルサイトで取り上げているインフラは、ダム、道路、河川に関する施設が多く、全体の見学ツアーに参加する来訪者数は、約370施設で年間約50万人となっている。

■ポータルサイトに掲載しているインフラの種類

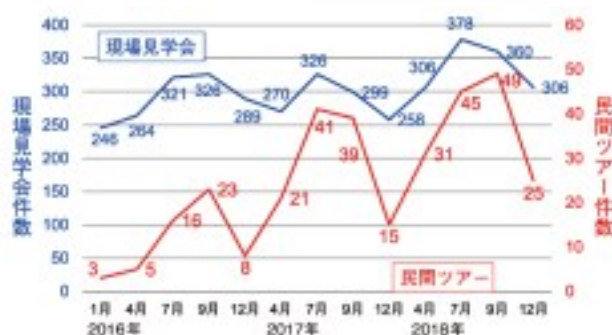
分野	インフラの種類
道路	道路、自動車道、橋梁、トンネル、街道、サイクリング道等
河川	堤防、水門、閘門、堰等
ダム	ダム等
砂防	砂防ダム等
下水道	下水処理施設、管路施設等
港湾	港内クルーズ、工場夜景、緑地広場、旅客乗降施設等
空港	展望施設、整備工場見学等

※インフラツーリズムポータルサイト掲載の施設対象のアンケートより集計（国土交通省総合政策局調べ）

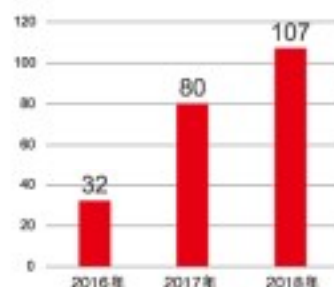
・来訪者の計測方法は施設ごとに異なる。

・既に観光と一体となって活用されている灯台・港内クルーズは除く。

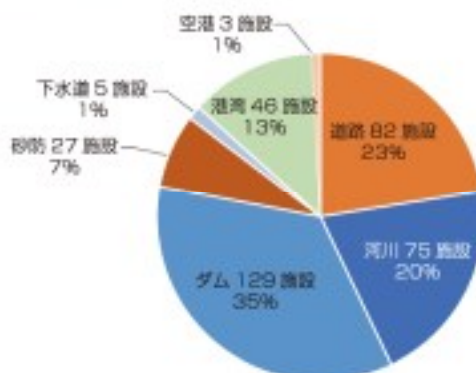
■ポータルサイト掲載件数の推移（四半期ごとの更新時の件数）



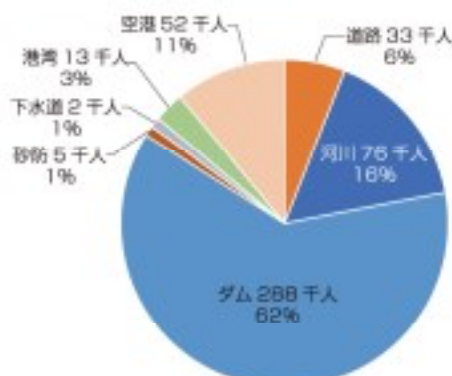
■ポータルサイト掲載件数のうち民間ツアーの推移（掲載なし）



■ポータルサイト掲載施設数（2017年367施設）（※）



■ポータルサイト掲載施設の来訪者数（2017年467千人）（※）



2 課題

広く一般の方々を対象としたウェブアンケートでの認知度調査では、「インフラツーリズム」を知らない人が約8割である一方、インフラを「見学したい」と思う人が7割以上であり、魅力を発信することでインフラツーリズムが拡大されていく余地は大きいと考えられる。

さらに、訪日外国人旅行者に対する意識調査でも、日本のインフラ見学に対して「興味がある」と回答する人が約9割と多いため、見せ方を工夫することで年々増加する訪日外国人旅行者の来訪が期待できる。

一方、インフラの施設管理者からは、課題としてインフラを案内する対応要員の確保が十分にできないこと、トイレや駐車場などの受入施設が不十分であること、見学者の安全確保が重要であることなどの意見がある。

また、インフラツーリズムをテーマとしたツアーを企画する旅行会社からは、駐車場などの受入環境の充実を求める声とともに「ダム全景を見ることが出来る場所がほしい」や「非公開部分を見せてほしい」、「一過性のイベント的な開催ではなく継続して実施したい」などの声があがっている。

今後は、地域と連携しながら、地域活性化に寄与するインフラツーリズムを実施していく必要がある。

インフラツーリズム 拡大の課題

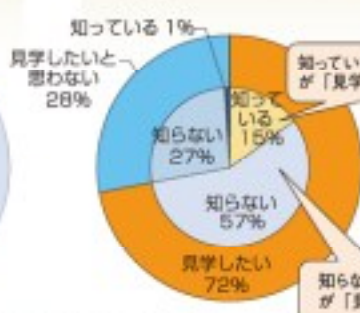
- 1 **施設の見せ方**
観光資源として活用するには施設の見せ方に工夫が必要である
- 2 **広報周知**
インフラの観光資源としての価値を広報することが必要である
- 3 **対応要員の確保**
受け入れ枠の拡大には対応要員の確保が必要である
- 4 **受入環境の整備**
トイレや駐車場などの十分な確保が必要である
- 5 **安全性の確保**
非公開部分を公開するにあたり安全確保が必要である
- 6 **持続性の確保**
継続的に実施していく仕組みが必要である
- 7 **地域との連携**
地域との連携を深め地域活性化に寄与する必要がある

インフラツーリズム を知ってますか

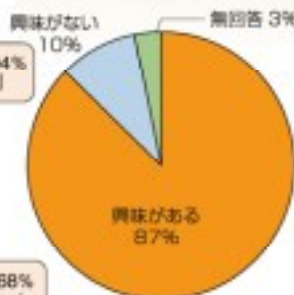


全国WEB調査 (N=1000人)
2018年7月実施

インフラを 見学したいですか

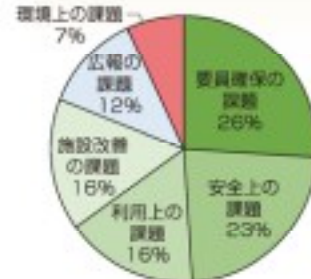


訪日外国人旅行者の 関心度



訪日外国人旅行者ヒアリング
2018年7月実施(※1)

施設管理者の 課題認識



施設管理者アンケート
2018年7月実施(※2)

民間事業者・地元観光協会等からの声

- ・トンネルや橋梁の工事は商品価値として高い
- ・もう一步非公開部分に入り込めると、商品として売り出しやすい
- ・インスタ映えの写真を撮りたい方が多いのでダム全景が見える場所があるといい
- ・大型バスが停車できるスペースやトイレがあるとありがたい
- ・団体で動けるように大型のエレベーター設置があるとありがたい
- ・PR費用を考えると、複数回は見学ツアーを実施したい
- ・利用客確保のために平日よりも休日に見学会を開催したい
- ・都市では工場夜景が商品として販売できるなら工事現場の夜景も観光商品になるはずだ

※1 東京シティアイでの訪日外国人対象 (N=63人/20ヶ国) の聞き取り調査結果

※2 インフラツーリズムポータルサイトに掲載されている施設へのアンケート調査結果

2 インフラツーリズムのさらなる拡大に向けて

1 拡大に向けた考え方

インフラツーリズムは、インフラの役割や意義などインフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事中の風景など非日常を体験するツアーを地域と連携して展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指している。

インフラツーリズムのさらなる拡大の考え方として、今まで実施してきた「土木広報としてのインフラの見学会」に付加価値をつけて、「人が呼べる観光資源としてインフラを磨き上げ」、広範囲からインフラへの見学者を呼び込み、インフラの見学にとどまらず、インフラが設置されている地域の方々と連携して、「周辺観光資源への立ち寄りや地域への宿泊を促し」、地域活性化を進めて行くことが重要である。

なお、インフラの特性（用途・構造・規模など）や地域の特性（地形・周辺状況・歴史など）によって、各地域でインフラツーリズムの進め方の条件は異なり、それぞれの地域で目標とする段階も異なる。また、現在の来訪状況により、ステップアップしていくための取組内容も変わってくる。そのため、各施設が置かれた「インフラツーリズムの段階」を踏まえ、インフラツーリズムの拡大に向けた取り組みを進める必要がある。

■インフラツーリズムの拡大を図るために

- ①まず、インフラに来てもらう
- ②そこで、インフラを楽しんで理解してもらう
- ③そして、地域に滞在してもらう

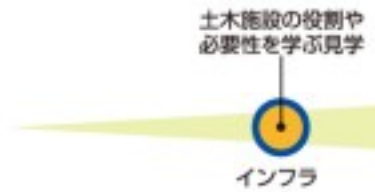
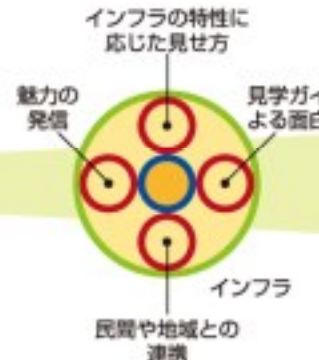
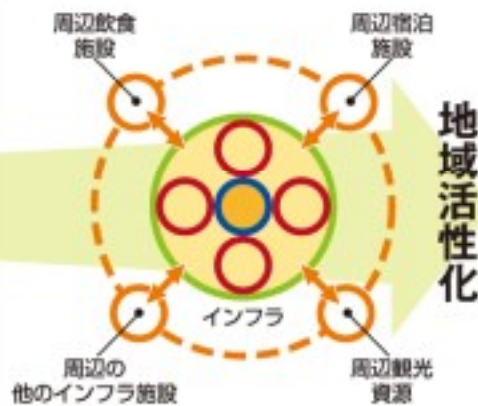
■実現するために

- ①魅力的な施設の見せ方を工夫する
- ②魅力を発信する（広報周知）
- ③対応要員を確保する
- ④受入環境を整備する
- ⑤安全性を確保する
- ⑥持続的に展開する仕組みを確保する
- ⑦地域と連携する

イメージ図
インフラツーリズムの段階
地域活性化への寄与
拡大の進め方
対応主体

■インフラツーリズムの理念

インフラツーリズムは、インフラへの理解を深めていただくため、普段訪れることのできないインフラの内部や、日々変化する工事風景などの非日常を体験するツアーを展開することにより、地域に人を呼び込み、地域活性化に寄与することを目指すもの。

土木広報 ～インフラツーリズムの基礎～	土木広報＋付加価値 ～魅力ある観光資源へ～	(土木広報＋付加価値)×周辺観光資源 ～地域と連携した観光地域づくり～
 <p>土木施設の役割や 必要性を学ぶ見学</p> <p>インフラ</p>	 <p>インフラの特性に 応じた見せ方</p> <p>魅力の 発信</p> <p>見学ガイド による面白さ</p> <p>インフラ</p> <p>民間や地域との 連携</p>	 <p>周辺飲食 施設</p> <p>周辺宿泊 施設</p> <p>周辺の 他のインフラ施設</p> <p>インフラ</p> <p>周辺観光 資源</p> <p>地域 活性化</p>
土木広報としてインフラの見学会を実施している段階	インフラの見学会を磨き上げ、より広範囲から人を呼び込む段階	インフラと地域との連携により、周辺観光資源等にも立ち寄り、より一層地域活性化が図れる段階
施設管理者中心の取組でインフラの役割や意義を学ぶ社会科見学が中心。対象は地域住民や学校であることが多く、地域経済波及効果は大きくない。	インフラの魅力向上によって、広範囲からより多くの来訪者が訪れるようになる。遠方からの来訪やインフラでの滞在時間増により地域での滞在時間が増え、地域経済波及効果が発揮されてくる。	インフラを訪れる方々が、飲食店や周辺観光資源に立ち寄ったり、地域へ宿泊したりすることで地域での滞留が生まれ、滞在時間が増えることで消費も増え、より地域経済への波及効果が拡大する。
インフラの本来機能を果たしつつ、様々な工夫を施してインフラ自体の魅力を高め、インフラを公開していく。インフラの魅力を発信し、「伝わる」広報を実施する。	インフラの特性に応じた見せ方や見学ガイドといった付加価値を加え、インフラへの集客を進める。対応要員を確保し、土日などにも公開できるような仕組みを検討する。	周辺観光資源や宿泊施設との連携や、周辺の他のインフラとも連携し、より特徴のあるインフラツーリズムを展開していく。一過性に終わらせずに持続性を確保し、インフラを訪れる方々を継続的に地域に呼び込めるようにしていく。より多くの人を受け入れるための安全対策を実施し、受け入れ枠を拡大していく。
インフラの施設管理者	地域と連携した組織・民間事業者（旅行会社など）	

インフラツーリズムの
基礎である土木広報

土木広報段階からの
ステップアップ
⇒「+α」で付加価値を高める

魅力あるインフラから地域の観光
資源としてのステップアップ
⇒周辺資源等との連携による経済波及効果の増加

2 全体のレベルアップでインフラツーリズムを拡大

インフラの中には、見学会の来訪者が年間1万人を超える施設がある一方で、年間の来訪者が数十名程度の施設もある。インフラへの来訪者数は、インフラの特性や地域特性によるところが大きく、目標とする人数は各施設毎に異なってくる。

インフラツーリズムのさらなる拡大に向けては、各インフラがそれぞれの魅力を磨きあげ、より多くの方が来訪していただけるような取り組みにつなげていくことが大切である。

また、その来訪者がインフラだけではなく、地域の他の観光資源を訪れることにより地域経済を活性化させていくことが重要である。

このため、インフラツーリズムの拡大は、大都市近郊にあるインフラで実施するだけでなく、地方で地域活性化が望まれている地域では、観光資源のひとつとして周辺観光資源と連携しながら積極的に対応していく必要がある。

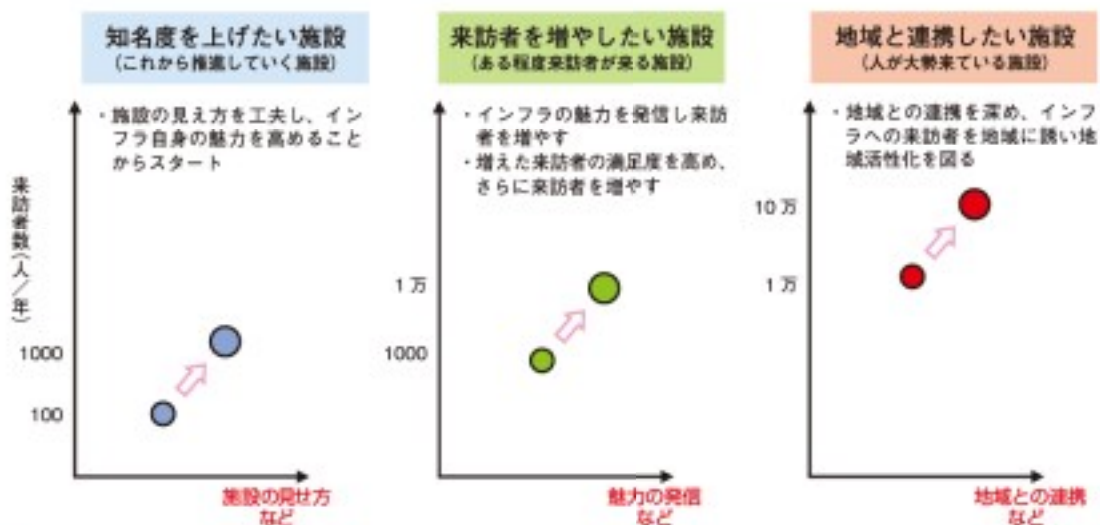


神奈川県にある宮ヶ瀬ダムにおける放流見学会
年間10万人を超える見学者が来訪する。



新潟県と福島県を結ぶ
国道289号線の工事見学会
工事期間を縫って見学会を開催し、年間1,000人程度を受け入れている。工事見学だけでなく周辺観光資源も巡るバスツアーで構成している。

それぞれがレベルアップしていくためには、現状でのインフラへの来訪者数を目安に、各インフラが目指す方向性に沿った取り組みから始めることが効果的。



各インフラが目指す方向性により取組内容(横軸)は異なる

■ インフラの来訪者規模による進め方イメージ ■

3 拡大への取り組み ~先進事例をヒントに~

インフラツーリズムの拡大は、土木広報に加え、より楽しめるような付加価値をつけていくことから始めることが重要である。

そこで、インフラツーリズムを先進的に進めている事例の中から前章で整理した課題に対応する取り組みを、「勘所」(かんどころ)として整理し紹介する。

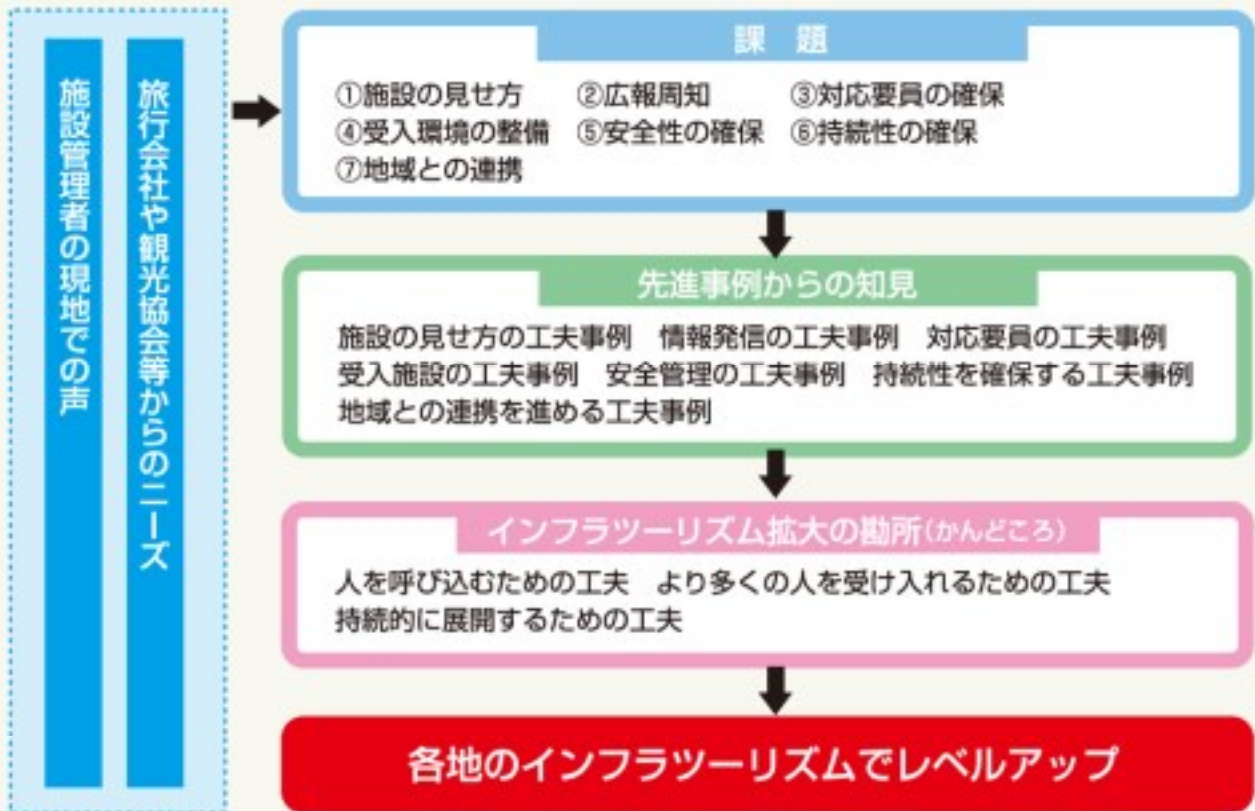
拡大に向けた「勘所」は、人を呼びこむための工夫、より多くの人を受け入れるための工夫、持続的に展開するための工夫に分けて整理している。各インフラ毎に抱える現状や課題を踏まえ、それらに対応する先進的な取り組みを参考にして、各地で取り組める内容から実践していただきたい。

また、旅行会社や観光協会などからの声も念頭に、観光資源として魅力的になるようさらにレベルアップしていく必要がある。



明石海峡大橋

■ 拡大への取り組みの流れ ■



インフラツーリズムの拡大を進めるため、先進事例の取り組みから整理したインフラツーリズム拡大の「勘所」(かんどころ)を、各地のインフラツーリズムをレベルアップさせるためのヒントとして活用

1 「勘所」の概要

この「勘所」は、土木広報として行われてきたインフラの見学会にどのように“+αの付加価値”を付け加え、インフラツーリズムとして持続的に展開していくかのポイントを整理したものである。

「勘所」は、インフラツーリズムを拡大していくにあたっての課題を解決していくためのヒントとして、人を呼びこむための工夫、より多くの人を受け入れるための工夫、持続的に展開するための工夫に分け整理している。

インフラツーリズムの理念を実現していくため、“まずインフラに来てもらい”、“そこでインフラを楽しんで役割や意義を学んで理解していただき”、“そして地域に滞在してもらえるよう”に「勘所」を押さえながらインフラツーリズムを展開していただきたい。

■インフラツーリズム拡大の「勘所」

区分	アイコン	「勘所」	「勘所」の内容
人を呼び込むための工夫	 施設の見せ方	施設の見せ方	来訪者がインフラを楽しめる見せ方や活用の仕方の工夫
	 魅力発信	魅力発信	インフラの魅力や価値を情報発信していくにあたっての工夫
より多くの人を受け入れるための工夫	 対応要員の確保	対応要員の確保	来訪者の増加や土日開放に対応するための対応要員確保の工夫
	 受入環境の確保	受入環境の確保	トイレや駐車場等の受入環境を確保するための工夫
	 安全性の確保	安全性の確保	来訪者の安全を確保してインフラ見学を実施するための工夫
持続的に展開するための工夫	 持続性の確保	持続性の確保	一過性のイベントとしてだけでなく、定期的開催するための工夫
	 地域との連携	地域との連携	地域と連携して魅力的なツアーとする工夫や来訪者を周辺観光資源に導く工夫
	 インバウンドへの展開	インバウンドへの展開	増加する訪日外国人を受け入れるための工夫

2 「勘所」の使い方

インフラツーリズムの実施にあたり、各インフラの現状や課題ごとに、着目すべき取組内容は異なってくる。

これからインフラツーリズムを推進していくインフラでは、どうやって付加価値を付けて魅力的にしていかに力点を入れ、来訪者が多くなってきているインフラでは、来訪者がさらに増えるようインフラの魅力や価値を情報発信し、多くの来訪客が訪れるようになったインフラは、来訪者をどうやって他の資源に立ち寄せられるかなどに力を入れると効果的である。

現状や課題を確認し、それぞれの施設でインフラツーリズムの現時点の目指す方向性を決め、それに沿った「勘所」を見ていただき、実践できるところから取り組んでいただきたい。

■目指す方向性ごとの「勘所」

目指す方向性	まずは、この「勘所」から見て下さい	アイコン	記載ページ
知名度を上げたい施設 これから推進していく施設	1 番目「施設の見せ方」 ⇒ どこを、どのように見せれば魅力的になるのかを検討してください		P13 P14~18
	2 番目「安全性の確保」 ⇒ 見学する場所の安全性をどう確保するのかを検討してください		P21 P25
	3 番目「魅力発信」 ⇒ 魅力的になったインフラを情報発信しましょう		P13 P19~20
来訪者を増やしたい施設 ある程度来訪者が来る施設	1 番目「魅力発信」 ⇒ インフラの楽しみ方を情報発信して、さらなる PR を進めましょう		P13 P19~20
	2 番目「対応要員の確保」 ⇒ 対応要員を確保し、土日などにも公開できる仕組みを検討してください		P21 P22
	3 番目「安全性の確保」 ⇒ 受入人数を増やした場合に安全性が確保できるかを検討してください		P21 P25
地域と連携したい施設 人が大勢来ている施設	1 番目「受入環境の確保」 ⇒ 更なる受け入れに向けて施設の使い方を工夫したり周辺と連携して対応 しましょう		P21 P23~24
	2 番目「持続性の確保」 ⇒ 持続的に展開できる体制を整え、継続的に実施できる体制を検討しましょう		P26 P27~28
	3 番目「地域との連携」 ⇒ 周辺観光資源等と連携して地域全体の来訪者数や滞在時間を増やしましょう		P26 P29~30

3 人を呼び込むための工夫



インフラを観光資源として活用するためには、迫力ある土木構造物の大きさを感じる場所を用意したり、普段見ることができないインフラの内部を見学できるようにしたりとインフラや空間を活用し、来訪者が「体感する・驚く・楽しむ」ための魅力的な「施設の見せ方」の工夫が必要である。

あわせて、「施設の見せ方」によって土木広報に付加価値を加えたインフラを売り出していくためには積極的に「魅力発信」していくことが必要である。



施設の見せ方

施設の見せ方

1 施設の魅力を高める見せ方

どこを、どのように見せると、「迫力があるか／驚きがあるか／楽しいか／…」等を考え工夫する

- 土木構造物の大きさやスケール感などが感じられる
- 「期間限定」「非公開空間見学」などプレミアム感がある
- ひとつの施設だけでなく、ストーリーや関連性のある他施設と連携する
- 分かりやすい、面白い、勉強になるなど、説明に工夫がある

2 インフラが生み出した空間の活用

インフラがつくり出した空間や景観の「場」としての活用方策を検討する

- インフラやインフラがつくり出した空間（ダム湖、園地・緑地、管理用通路など）をアクティビティの場として活用



魅力発信

魅力発信

1 施設管理者による情報発信

イベント情報は、分かりやすく、早めに周知していく

- 旅行を計画する方々に配慮して、放流の実施日などのイベント情報は早めに公表する
- 施設管理者のウェブページのトップでインフラツーリズムの情報をお知らせする
- 分かりやすいチラシをつくり、PRする

2 多様な主体との連携による情報発信

情報発信は「情報を伝える」から「魅力や価値が伝わる」へ転換し工夫する”

- 地元の自治体と連携して、より魅力的な情報発信を行う
- 民間事業者と連携して、より魅力的な情報発信を行う



非公開場所の活用

◆ 非日常空間の体感

(本州四国連絡高速道路株式会社 明石海峡大橋)

支間長と主塔高さが世界一の吊り橋である明石海峡大橋の主塔に登頂するツアー「ブリッジワールド」を実施している。建設に関わった公団や建設会社職員、OBから橋梁の建設技術の説明を受けることで、技術や土木施設の理解につなげている。一般に開放されていない管理用通路、管理用エレベーターを使用して、海上約300mの主塔からの絶景パノラマを眺めることができる。



管理用エレベーターで主塔に登頂

◆ 非公開の立坑を公開

(関東地方整備局 首都圏外郭放水路)

「防災地下神殿」のキャッチフレーズで貯水槽の見学会を行ってきたが、2018年度に社会実験として民間事業者による運営が始まったことから説明要員などの確保も可能となり、非公開エリアであった立坑の公開を一部開始した。有料での公開としているが見学者からは「迫力ある立坑が見られて良かった」との声があげられている。



公開が始まった立坑

◆ 天候に左右される空間開放への対応

(西日本高速道路株式会社 関門自動車道 関門橋)

本州と九州を隔てる関門海峡に架設された吊橋で、通常の見学コースでは吊橋を支える主塔の塔頂まで上られる。悪天候の場合は、代わりに関門トンネルの「水抜立坑」が見学できる。

天候に左右される箇所では代替案を用意すると公開の幅が広がる。



関門橋の塔頂部と水抜立坑に通じるトンネル

多彩なコンテンツの提供

◆ 多彩な見学ツアーを開催

(関東地方整備局 ハッ場ダム)

工事事務局が主催して、個人向け、団体向け、そしてマニアから一般の人までを対象とした10コースの多彩なツアーを実施。複数のツアーがあるため、自分の好きなコースを選べるなど選択の幅が広がり来訪者が増加した。

全国のダムマニアを対象に「ハッ場ダムファン倶楽部」を組織。会員の意見を取り入れたマニアが「してもらいたい」と思う特別見学ツアーを実施している。



10コースのツアーの一つであるファン倶楽部見学会

◆ 夜間の工事現場見学会も開催

(関東地方整備局 ハッ場ダム)
(四国地方整備局 横瀬川ダム)

夜間の工事は、照明が多数点灯され、通常の工事現場とはまた違った幻想的な景観を楽しむことができる。

夜間の開催により、見学者の周辺地域への宿泊も期待される。



ハッ場ダム夜間工事

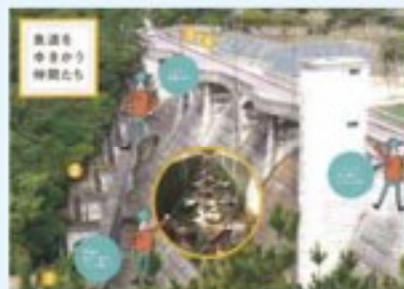


横瀬川ダム夜間工事

◆ 来訪者の興味に合わせた見学コースを選定

(沖縄総合事務局 漢那ダム)

漢那ダムでは、来訪者の興味に合わせて見学コースを選定しており、説明内容を小中学生用、高齢者用、技術者用などに分けて用意している。技術者向けにはより専門的な説明をしたり、高齢者向けには体への負担が少なくなるようなルートを選定したり、小学生向けには、わかりやすい表現を用いた学習教材を製作し活用している。



小学生用の学習教材

◆ 工事の進捗を止めない工事見学会の開催

(北陸地方整備局 国道289号八十里越)

国道289号の「八十里越(はちじゅうりごえ)」と称される山間部での工事は、豪雪地帯で冬期閉鎖となり、工期が遅れないよう配慮しながら見学会を行う必要がある。旅行の需要が高い土日祝日にツアーを実施することで旅行客も参加しやすくなり、また工事も休日であることから、工事の進捗への影響を抑える点でも効果的であった。



休日に実施される工事の見学会

見せ方の工夫

◆ 視点場の発掘

(関東地方整備局 川俣ダム)

SNS等で発信するために訪れる人に向け、ダム全景が見える場所を視点場として整備したり、ダムカード型のフレームを設置したりすることで、写真を撮りたくなる工夫をしている。

視点場への誘導やその場へ行くことどのような写真が撮れるかを分かりやすく周知する工夫も必要である。



ダム全景が見える視点場

◆ ダム堤体でのプロジェクションマッピング

(近畿地方整備局 天ヶ瀬ダム)

天ヶ瀬ダムでレーザー光線ショーを行うと多くの方に楽しんでもらえるのではないかという近畿地方整備局の若手職員のアイデアをもとに、プロジェクションマッピングの方式で、京都精華大学の協力を得て映像を作成し、2日間で1200人が訪れるイベントを実現した。



堤体をスクリーンとして活用

組み合わせによる魅力UP

◆ インフラを組み合わせる魅力アップ

(長野県小谷村 ドボクアート砂防堰めぐり)

小谷村には、土石流を防ぐために多数の砂防堰堤が整備されている。このうち、特徴的な10基を厳選し、ドボクアートと見立てて見学ツアーを実施している。様々な砂防施設を一度に見られることから、マニアを中心に人気がある。



さまざまなタイプの砂防堰堤

◆ 複数の事務所で合同インフラツアーを実施

(中国地方整備局 中国技術事務所+休山トンネル工事見学)

中国技術事務所では、防災体験メニューの他にも楽しんでもらえる魅力あるインフラツアーを、周辺の事務所と連携して企画し、広島国道事務所で行っていた休山トンネル工事の見学とセットでツアーを実施することができた。

アンケートは5点満点で平均4.8点と満足度が高く、「また、こんな企画をつくってほしい」という声が寄せられた。



中国技術事務所における
降雨体験



休山トンネル工事の見学

コラム インフラをダイナミックに写せる視点場を探そう

ダムなどの巨大土木施設は近くで大きさを感じられることも重要だが、写真撮影で全景が入らない場合がある。

少し移動すれば、全景が撮影できる視点場が発見できることもあるため、インフラが美しく見える視点場を探し、開放できるように整備したり、その場所がどこにあるか周知したりすると効果的である。



(例) 通常の視点場からの写真(左)は、手前に建築物が写り、ダム全体が撮影できない。しかし、数十mほど離れるとダムの全景(右)が撮影できる。

その 1

コラム ツーリズムの目的に応じてレベルアップ

スマートフォンの普及もあり、旅行中に写真を撮って SNS にアップするという人が増えている。インフラを主目的として来るいわゆるマニア向けにも、一般の観光客向けにも、「写真を撮りたくなるのはどういう風景か」を考えて見せ方を考えたり情報発信をしていく必要がある。

ターゲット毎のツーリズムの主な目的と着目される点

ターゲット		ツーリズムの目的	着目される点
インフラが主目的の人	観光客		
◎	◎	写真	写真映え、視点場
◎	○	デザイン・機能	解説、情報量
○	○	収集	インフラカード
	○	体験	語り部、乗り物
	○	歴史	物語性
	○	周辺観光資源	周辺との連携、お土産

◎：特に重要である ○：重要である

訪れる人それぞれの目的に応じたサービスのレベルアップが必要

その 2

◆ 絵本を作って子どもにも伝わる説明

(四国地方整備局 横瀬川ダム)

事務所の女性職員が自分の子どもに仕事内容を伝えたいと職場の女性たちで紙芝居をつくるプロジェクトを立ち上げた。

紙芝居の評判が良かったため絵本にして、図書館に配置し、見学者に配り、ウェブページでダウンロードできるようにした。絵本を読んだから見学会に来た子どもは、ダムの専門用語を口にしながら楽しんで見学している。



絵本の表紙

ダム堰体建設を紹介する絵本の1ページ



パイバックは ぶるぶる震えて、山もりのコンクリートを平らにしていきます。そのあと 平地切機が板を入れてダムのひび割れを 防ぎます。つづいて、お掃除マシンのグリーンカットが 悪いスライムを追い出すと、スライム回収機が 捕まえて来ます。

◆ ARアプリによる洪水疑似体験

(関東地方整備局 首都圏外郭放水路)

外郭放水路の調圧水槽(「防災地下神殿」)内で、通常の見学時には見ることができない洪水時の貯留の様子を、AR(拡張現実)アプリを利用して疑似体験できるようになっている。

アプリは、日本語、英語、中国語(簡体字・繁体字)の解説付きで、現地見学前にダウンロードすることで、通信圏外である調圧水槽内でも使用できるようになっている。



スマートフォンを向けると貯水槽に水が溜まっている様子が映し出される

◆ 紙芝居を使った説明

(関東地方整備局 川治ダム)

民間ツアー会社では、ダム管理者と連携しインフラの説明時にわかりやすいように、図や写真を用いて紙芝居のような説明資料を作成した。裏面にガイドする内容を書きおくと、管理者でなくても専門的な説明がスムーズにできる。



ダム見学中に利用する紙芝居

◆ 聞き取りやすいよう無線イヤホンでガイドを実施

(本州四国連絡高速道路株式会社)

明石海峡大橋

大勢を案内するときや、工事現場、風が強い所などを案内する時は説明が聞き取りにくいことがある。明石海峡大橋では40名以上の参加者に、説明が確実に聞き取れるように無線イヤホンを装着してもらっている。



無線マイクによる解説



参加者全員に渡す無線イヤホン



インフラが生み出した空間をアクティビティの場として活用

◆ 津軽白神湖(津軽ダム湖)における水陸両用バスの運行

(東北地方整備局 津軽ダム)

ダム湖を観光で活用しようと、西目屋村が購入した水陸両用バスでのダム湖の遊覧クルージングが人気である。

当初利用していた進入路では、ダム湖の水位が下がると利用できなかったが、水位が低下しても利用できるようにと西目屋村が進入路の改良を行い、今ではスピードを上げて水面に入れるためスプラッシュが大きく利用者を楽しませている。



津軽白神湖へスプラッシュイン

◆ ダムの環境を生かしたトライアスロン大会の実施

(中国地方整備局 尾原ダム)

尾原ダム周辺で行われる「さくらおろち湖トライアスロン大会」では、ダムの環境を生かした大会が実施されている。

スイムはダム湖を泳ぎ、バイク & ランは風光明媚なダム湖外周を巡るコースで、ダム湖は波がほとんどなく泳ぎやすいため、人気のコースとなっている。



ダム湖であるさくらおろち湖で1.5kmのスイム

コラム インフラが生み出す空間の新たな活用例が増えてます

インフラが生み出す空間を新しい使い方で楽しむ事例が増えている。

開通イベントとは別に新設道路を開通までのあいだ貸し出しをしたり、ダム堤体の直下でコンサートを行ったり、ダムの監査廊や廃トンネルを日本酒やワインの貯蔵所としたりと様々な活用がなされている。

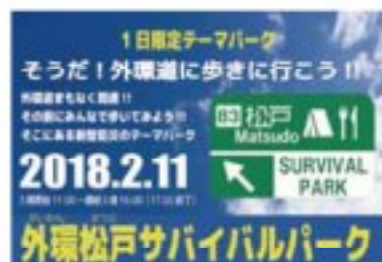
このような使い方をすることで当初はインフラが主たる目的ではなくても、インフラがあるからこそ楽しめる使い方を体験することで、インフラに興味を持つきっかけになることが期待できる。

ダムの環境を活かしたコンサート
(東北地方整備局 雫子ダム)

建設 60 周年を記念としてダム下流部をトレッキングするツアーや、アーチダムの堤体の反射を利用したコンサートを開催した。



工事完了から開通までのあいだ特別開放し、松戸市青年会議所などが音楽会等のイベントを開催した。(東日本高速道路 東京外かく環状道路)



未供用区間の活用
(東日本高速道路 東京外かく環状道路)



情報発信の工夫

◆「地下神殿」に見立てブランド化

(関東地方整備局 首都圏外郭放水路)

首都圏外郭放水路をアピールするために「防災地下神殿」という興味をひくネーミングをつけることにより、マスコミにも取り上げられることも多く大きな広報効果が得られている。

また、地下神殿のイメージをブランド化する戦略として、公開拡充した点を「プレミアム」な進化として紹介したり、防災地下神殿のロゴを作成したり、イメージに合わせてガイドの制服をデザインして制作したりしている。



「防災地下神殿」と呼称し、ロゴや制服をそれに合わせたデザインとしている

◆観光放流の年間予定の公表

(関東地方整備局 宮ヶ瀬ダム他)

カラーコンテンツである観光放流やイベントの年間予定を、わかりやすいカレンダー形式で年度当初に公開していることで、旅行や見学のスケジュールが立てやすくなり、小学校や幼稚園をはじめ、様々な団体がバスで訪れている。

他にも、点検放流のスケジュールを事前に公表しているダムでは、多くの来訪者が集いやすく、イベントとして盛り上がりを見せている。

8月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2018年度「宮ヶ瀬ダム観光放流」スケジュール(8月抜粋)
青は定例観光放流、赤はイベント放流

◆観光案内所での手づくりチラシの配布

(近畿地方整備局 天ヶ瀬ダム)

管理事務所の女性職員が手づくりでダム見学を案内するチラシを作成し、ダムから約3 kmの距離にある京阪宇治駅構内の観光案内所で配布している。

手書きのチラシで暖かみのあるチラシになっており、周辺の見どころと共にダムを紹介し、ダムへの散策を促している。



「宇治のもう1つの観光名所天ヶ瀬ダム」としてPR

◆ウェブページトップで大きなアイコンで表示

(関東地方整備局 ハッ場ダム)

ハッ場ダム工事事務所のウェブページのトップ画面の先頭に「やんばツアーズ」の大きなアイコンが貼られており、すぐに見学会の案内ページに行きつくことができる。

目につきやすい色やアイコンで分かりやすく伝えることが重要である。



ウェブページのトップに見学会案内のアイコンを配置



様々な媒体での紹介で認知度アップ

◆ 鉄道会社の観光キャンペーンとの連携

(関東地方整備局 川治ダム)

鉄道会社の旅行キャンペーンに、ダム見学の企画を地元旅館組合などが提案し採用され、人目につきやすい駅構内でのダム見学のポスターが掲示されるなど鉄道沿線でのPRが進んだ。

また、新幹線の座席に設置された冊子でも紹介されるなど、鉄道会社との連携により施設管理者だけではできない方法で大きく広報してもらうことができた。

旅行キャンペーンの
駅貼りポスター



◆ 行政パンフレットとの連携

(関東地方整備局 宮ヶ瀬ダム)

宮ヶ瀬ダムを観光資源と位置づけて、神奈川県が作成する広域観光パンフレットに掲載された。

パンフレットの表紙に宮ヶ瀬ダムの写真が掲載され、周辺観光資源とあわせてダムが紹介されている。

また、鉄道会社から宮ヶ瀬ダムハイキングバスが発行されるなど、公共交通機関で行けるダムとして鉄道会社のチラシなどでも広報されている。

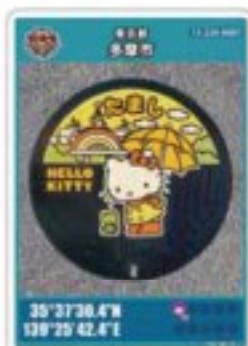
地元行政が作成した
観光パンフレット



コラム カードやカレーで認知度アップ!

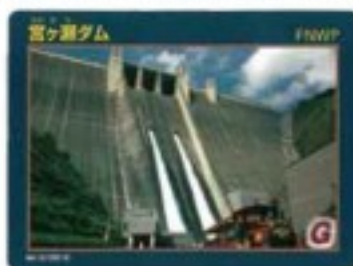
ダムカードやマンホールカード等のインフラカードはコレクターを中心に人気があり、ダムなどのインフラを訪れる一つのきっかけとなっている。

ダムをモチーフにしたダムカレーなどを提供する飲食店がダム周辺で増えており、ダム水源地域の方々が地域活性化に向けて、それぞれのダムごとに工夫をこらした一品をメニューとして出している。



マンホールカードは 2018
年 12 月時点で 478 種配
布中

宮ヶ瀬ダム放流カレーはソーセージを
抜くと湖に見立てたカレーのルーが放
流される。



ダムカード (統一デザイン) は 2018
年 4 月時点で 668 箇所配布中



4 人を受け入れるための工夫

より多くの人を受け入れるためには、見学会の受け入れ枠を拡大することが効果的である。

そこで、インフラを案内する対応要員を確保し、土日祝日などでも対応できるようにしていくこと、トイレなどの受入環境を整えること、非公開部分を案内することから見学者の安全性の確保することなどが重要となってくる。



対応要員の確保

民間事業者などとの連携

受入枠拡大に向けて、民間事業者、NPO、ボランティア等と連携する

- 受入枠拡大のため土日祝日に見学会が開催できる体制を整える
- 施設管理者主体の対応が難しい場合は、民間事業者、NPO、ボランティア等と連携する



受入環境の確保

1 現場における受け入れの工夫

来訪者数を増やしていくなかで、現状の施設の受入環境で対応するために工夫する

- 施設の受入能力を把握し、定員が決まっている場合は見学コースを分けて対応する
- 現場で改善できる方法がないか検討する

2 周辺施設との連携

インフラ側でトイレや駐車場等を十分に整えることが難しい場合は、周辺施設と連携する

- 周辺の施設にトイレや駐車場などの受入環境があるか把握する
- 受入環境が利用できるよう周辺施設と連携する



安全性の確保

事故を回避する対策

観光資源としての活用が想定されていないインフラの内部などを開放する場合は十分に安全性を確保する

- 気象条件や時間帯など開催基準を設けて安全に実施できるようにする
- 見学中の安全性を確保し、事故を回避するための対応を行う



対応要員の確保

民間事業者などとの連携

民間事業者による対応

◆ 民間事業者による見学ツアーの実施（1）

（関東地方整備局 首都圏外郭放水路）

首都圏外郭放水路では、2018年より河川空間オープン化の制度を利用し民間による営業活動が展開できる仕組みが構築された。

そこで、見学会の運営を民間会社が担うことにより分かりやすい解説を行う案内要員の確保が進み、土日祝日も見学会が開催できることとなり、入場者枠を5倍に拡大することができた。



民間会社の社員による案内

◆ 民間事業者による見学ツアーの実施（2）

（関東地方整備局 川治ダム他）

民間事業者のみでダム見学ツアーを実施する社会実験を行っている。ツアーは、川治ダム・五十里ダム・小網ダムの3つのダムを巡るもので大人一人3,000円の料金となっている。

ダム堤体やキャットウォークを案内することから、民間事業者は事前に施設管理者による安全管理や施設案内の研修を受けている。



地元エコツアー会社による
キャットウォークの案内風景

◆ 地元在住者のガイドによる見学ツアー

（関東地方整備局 ハッ場ダム）

ハッ場ダムでは、工事完成後にもインフラツーリズムを継続するため、地元在住者のガイドによる地元主催見学会を実施している。

建設に至る経緯やダム建設中をつぶさに見てきた様子、そしてダム完成後の地域のあり方など、地元を知り尽くした地元在住者によるガイドが行われ、地域活性化をにらんだ有料による見学ツアーが開始されている。



地元在住ガイドによる見学会の案内

ボランティアによる対応

◆ 認定ボランティアによる対応

（中部地方整備局 駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム）

「駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム運営協議会」（会長：駒ヶ根市長）が、一定の研修を積んだボランティアを認定ボランティアとして任命し、砂防フィールドミュージアムや砂防施設（太田切川床田工群）の説明することで、土日祝日の見学会が開催できている。



砂防施設の見学風景



受入環境の整備 1

現場における受け入れの工夫

施設の受入能力に合わせた工夫

◆ 事前説明の場所の確保

(関東地方整備局 湯西川ダム)

湯西川ダムでは、見所であるダム内部の監査廊に入る前に、空間に余裕のあるエレベーターホールに解説パネルを掲示し、施設の概要をパネルなどを用いて説明する場所を確保している。



パネルを用いて概要を解説

◆ エレベーターの定員に合わせた班編成

(東北地方整備局 津軽ダム、関東地方整備局 川治ダム 他)

管理用通路やエレベーターは、元々管理用につくられた施設であるため受け入れられる人数に制限がある。そのため数十名の見学者を一度に移動させることが難しい。

そこで、エレベーターの定員にあわせた班を編成し、直ぐにエレベーターに乗る班と、まずは施設概要を聞く班などに区分しエレベーターを利用する順番をずらす工夫を実施している。



エレベーター待ちの状況

バリアフリーへの対応

◆ 段差を解消するスロープの準備

(関東地方整備局 川治ダム)

見学コースの入口部分にある段差解消のため、携帯用のスロープを準備し、車いす等への対応を図っている。携帯用スロープであるため簡単に持ち運びができ、他の段差でも利用できるようになっている。



車いす用の段差解消スロープ

コラム 海外事例 フランス ミヨ橋の見学ツアー

フランスの高速道路橋にあるミヨ橋は、2001年の工事段階から見学会を始めており、現在では、橋の手前にあるサービスエリアから歩いて橋を見学するコースが設けられている。

橋を眺めながら約40分ガイドの説明を聞くコースでは、途中に橋の構造が分かる実物大模型等が配置され、見学できない部分についても理解できるように工夫されている。

ガイドは、フランス語以外に英語とスペイン語にも対応している。

2004年に開通した高速道路橋 橋長 2,460m
見学ツアー料金 大人 €4.50(約570円)
開催：通年開催で一日数回実施

資料：https://www.leviaducdemillau.com/fr/visiter/laire-du-viaduc-de-millau より
© CEVM Eiffage/Foster and Partners/D.Jamie





他施設との連携

◆ 無料送迎バスを運行して駐車場不足に対応 (独立行政法人水資源機構 矢木沢ダム)

ダムの点検放流は見学者が多く、ダム周辺で駐車スペースを確保することが難しい。そこで、地元のみなかみ町がダムから離れた場所に駐車場を確保し、放流エリアまで無料のバスを運行しダム周辺の駐車スペース不足の解消を図っている。なお、駐車料金 1,000 円で、みなかみ町の環境保護基金として使用されている。



シャトルバス乗り場

◆ トイレの少なさに対する対応 (東北地方整備局 津軽ダム)

ダム管理棟には、トイレはあるが個数も限られているため、団体利用の場合トイレの利用に時間がかかり見学時間が充分確保できなくなることがある。

そこで、団体のダム見学の申込時に「ダムにはトイレが少ないので、事前に道の駅など立ち寄り施設などで済ませることで時間を有効に利用できる」との情報を提供し、団体の見学に対応している。



トイレがあるダム管理棟

◆ 発着地点を周辺施設に設定 (関東地方整備局 瀬西川ダム)

瀬西川ダムでは、地域活性化として水陸両用バスの導入が行われ、「道の駅」と「水の郷」（温泉施設のあるドライブイン的な施設）の2箇所を水陸両用バスの発着場としている。ツアーの発着地点を周辺施設に設定することで、ダムを訪れる来訪者が周辺施設に立ち寄ってもらえる工夫をしている。



水陸両用バスの発着地点となる道の駅

コラム 海外事例 イギリス マージートンネルの見学ツアー

イギリス・リバプールにあるマージー川の河底を貫く地下トンネルの見学ツアー（クイーンズウェイトンネル換気塔）は 2006 年から始められており、排気口の巨大なファンを見ながら、1934 年に完成した地下トンネルや排気口の建設方法や当時のコントロールルーム等の説明を受けることができる。

資料：Mersey Tunnel Tours パンフレットより



1934年に完成した河底を貫く地下トンネル（道路）
延長：3,226m
見学ツアー料金：大人 £6.00(約900円)
開催：火～木 17:00～、土 10:00～



見学中の安全確保

◆ 落下物の防止策

(本州四国連絡高速道路株式会社 明石海峡大橋)

海上約 300mの高さの吊橋主塔上が人気のビューポイントだが、万が一落下物があると、下の道路を走る車と接触し、重大な事故が発生する可能性がある。

そこで、見学ツアーに持ち込む荷物を限定し、持ち込む携帯電話やカメラなどは首からぶら下げるストラップに付けてもらい、落下対策を実施している。



ストラップは見学前に貸し出される

◆ 転落防止柵のすき間を塞ぐ

(関東地方整備局 川俣ダム)

ダムのキャットウォークは普段入ることができない場所から迫力のある景観を楽しむことができるが、防護柵のすき間などの安全確保が重要である。

そこで、子どもの体が抜け落ちないように防護柵に網フェンスを貼って転落防止対策を実施している。



管理用の柵では隙間が大きく危険なため網フェンスで対応

見学会の開催基準

◆ 上陸ツアー中止基準の明確化

(関東地方整備局 第二海堡)

海上にあるインフラを訪れることから、上陸ツアー中止基準が明確に設定されている。

この基準を1つでも超える気象海象であれば上陸ツアーは中止となる。課題として、降雨・降雪によるツアー催行判断の明確化が必要となっている。

- ①風速 10m/S 以上
- ②波高 1 m以上
- ③視程 2,000m 以下

第二海堡上陸ツアーの中止基準

事故への備え

◆ 安全対策会議の開催

(北陸地方整備局 立山カルデラ砂防)

立山カルデラ砂防の見学会は、カルデラ内を散策するため、警察、消防、施設管理者、県博物館の関係者からなる「安全対策会議」を設立し、現地を歩き危険箇所などの点検を実施している。

砂防見学のように野外での行動が多い場合は、施設管理者だけでなく関係機関との連携が重要となってくる。



野外での砂防施設見学風景

コラム 危機管理対策は？

見学ツアーは、インフラ施設の内部に入るためセキュリティ上の対応も求められる。全国では対応として以下のような対策がなされているところがある。

- 見学ツアーの最後に職員を配置し人数確認と施設確認を行う
- テロ対策実施中であることを記載した張り紙を貼付する
- 見学に大きな荷物を持ちこめないようにする
- 重要な機器や装置の写真を撮らせない
- 見学通路などに監視カメラを設置する

エレベーター入口に、不審行動や不審物持ち込みを発見した場合は警察に通報する旨を書いて掲示



5 持続的に展開するための工夫

インフラツーリズムを拡大する上で、イベント的に見学会を開催するだけでなく、その見学会を持続的に実施していき、新たな観光資源として地域活性化につなげていくことが重要である。

そのため、地元自治体・地元関係団体・地元住民などの地域の方々の理解と合意を得つつ、地域の方々と連携し継続的に見学会が開催できるような体制や地域にお金落ちる仕組みを整えていくことが効果的である。



持続性確保

持続性の確保

1 地域の協議会等での運営

地域の方々と連携し理解を得ながら地元関係機関等からなる協議会等により運営する

- インフラを観光資源として活用することについて、地域の方々の理解や合意を得る
- 地元関係機関等からなる協議会等で運営し持続性を確保する

2 DMOや旅行会社等との連携

DMOや旅行会社等のノウハウを活かし幅広くインフラツーリズムを展開していく

- 地域の観光資源を良く知る DMO や旅行者のニーズを知る旅行会社等と連携する



地域との連携

地域との連携

周辺観光資源との組み合わせ

インフラツーリズムを地域活性化に繋げるため、観光客が地域に滞留するように周辺観光資源と連携する

- 地域の関係機関（地元自治体の観光系部署、観光協会、DMO、地域づくり関連のNPO 法人など）と連携し、周辺観光資源を組み合わせる
- 地元の歴史や自然に詳しい有識者と連携する



インバウンド

インバウンドへの展開

多言語対応と観光資源としての魅力発信

訪日外国人旅行者向けに、日本のインフラの機能性や土木技術の高さ等が伝わるよう工夫する

- アプリや分かりやすい資料を活用し多言語対応を行う
- 日本らしさや景観が楽しめる周辺観光資源と連携する



協議会等で民間事業者に関する合意形成

◆ 協議会の設置 (1)

(関東地方整備局 首都圏外郭放水路)

首都圏外郭放水路の見学ツアーは、社会実験として 2018 年から民間事業者が有料で運営している。これは、協議会等の活用により地域の合意を図ったうえで、民間事業者が河川敷地で営業活動を行える「河川空間オープン化」の制度を活用したことによる。

地域合意を得るための協議会は、国土交通省・春日部市・商工関係団体・観光協会で構成されている。



民間事業者による見学会ツアー

◆ 協議会の設置 (2)

(関東地方整備局 湯西川ダム)

湯西川ダムでは、民間事業者が水陸両用バスを運行しダム湖遊覧とダム堤体見学を実施している。この活動は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」の法定協議会として「水陸両用バス導入協議会」(事務局:日光市)を開催し地域関係機関等の合意をもって実施されている。



湯西川湖へのスプラッシュ

◆ 水源地域ビジョン推進委員会での承認

(中国地方整備局 尾原ダム)

尾原ダムでは住民を中心に結成された「NPO 法人さくらおろち」がダム見学や点検時のイベントなど、ダムをフィールドとして様々な活動を行っている。

これらの活動は、国土交通省・県・近隣市町・地元関係者らからなる水源地域ビジョン推進委員会によって承認され地域の合意として活動を展開している。



尾原ダムの全景

コラム 海外事例 スイス グランド・ディクサンス・ダムの見学ツアー

スイスのグランド・ディクサンス・ダムは、堤高 285m と重力式コンクリートダムの中で世界一の高さを誇る。このダム直下流には、ダム天端と下を結ぶロープウェイやホテルがあり、周辺のトレッキング観光の拠点として利用されている。

見学ツアーは、1980 年代から始められており、ダムの監査廊を見学するガイド付きツアーが開催されている他、家族向けには監査廊等を利用したゲームやクイズを組み合わせた見学ツアーもある。

1961年に完成した
発電用ダム
堤高: 285m
見学ツアー料金
大人 chf10
(約 1,100 円)
開催: 6 月中旬~
9 月末まで毎日4回



©Grande Dixence SA - Photo: essence design.com - www.dpicard.ch

資料: <http://www.grande-dixence.ch/> より



DMO (観光地域づくり法人) との連携

◆ DMO*によるインフラツーリズム商品の開発

(近畿地方整備局 天ヶ瀬ダム)

地元市町村の観光振興を図るために設けられた「お茶の京都DMO」が、集客力のある天ヶ瀬ダムに着目し、京都府南部に位置する南山城村にある高山ダムとセットにして地域を縦断するツアーを旅行商品化した。ダムをテーマに地域を巡り、地域の道の駅で買い物をしてもらい、温泉施設ではダムカレーを考案し提供している。

地域に根ざしたDMOがコーディネートすることにより、地域の様々な主体と連携が可能となっている。

*DMO (Destination Management / Marketing Organization) :
観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域づくりを行う法人のこと



天ヶ瀬ダムと高山ダムを同時に見学するツアーのパンフレット

旅行会社との連携

◆ 公募による見学ツアーの催行

(北海道開発局 公共施設見学ツアー)

北海道開発局が道内における1年間の公共施設見学ツアーの催行枠を公表し、旅行会社からのツアー企画や催行希望を受け付けている。催行希望に重複が無ければ申し込んだ旅行会社が見学ツアーを実施し、重複の場合は抽選とし公平性を確保している。

スケジュールの設定後、見学ツアーの企画・募集・催行は旅行会社がそれぞれ実施している。

2019年度実施の公募スケジュール

2018年12月18日～2019年1月15日	旅行会社等からの申し込み
2019年1月21日	施設選択会
2019年4月より	順次見学ツアーを実施



公共施設見学ツアーの募集情報 (北海道開発局のホームページより)

◆ 旅行会社が発案したインフラツアー

(東北地方整備局 (仮称) 気仙沼湾横断橋工事)

沖縄に本社がある旅行会社の仙台支店が、東北から沖縄に誘客をするだけでなく、東北の復興状況やインフラ整備の意味を理解するために、(仮称) 気仙沼湾横断橋の工事現場見学を含むツアーを企画した。旅行会社が国土交通省のインフラツアーについての講演を聞いたことがきっかけだった。

旅行会社が見学許可を東北地方整備局の事務所に依頼したところ、国の施策と合致する点もあるため、ツアーの受け入れを行い、工事現場の見学内容の提案と、現場での案内を事務所が行った。ツアーの募集は、地元ラジオ局とタイアップし番組を通して行った。

ツアーでは酒蔵の見学や気仙沼在住のシンガーソングライターのライブも行われた。



工事中の(仮称)気仙沼湾横断橋の橋脚の大きさを体感



周辺施設との組み合わせ

◆ 工事現場見学と周辺資源の組み合わせ

(北陸地方整備局 国道289号八十里越)

トンネル・橋梁などの工事現場見学にあわせ、周辺観光資源をバスで巡るツアーを地元自治体が企画し、民間旅行会社が主催している。

自然や歴史など、工事見学会と組み合わせる観光資源をツアー毎に変更し、インフラ見学に来た人達に、地域の様々な観光資源を見てもらえるようにしている。



現場見学の様子

◆ 遊覧船と歴史的土木施設の組み合わせ

(近畿地方整備局 三栢閘門)

伏見観光協会が運行する十石舟、三十石船の遊覧コースに三栢閘門と三栢閘門資料館を加えて、遊覧の見所の1つとしている。

閘門としての役割を終えた歴史的な土木施設が観光資源として取り込まれ、地域との連携によって新たな観光ルートが生み出されている。



遊覧船と三栢閘門



◆ 周辺資源との様々な組み合わせ

(沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所)

日本旅行業協会沖縄支部との意見交換会を実施し、その際ダム及びその周辺観光資源を紹介している。これを受けて地元旅行会社が、漢那ダムの見学と周辺観光施設とのセットでツアーを企画し販売している。

例えばダム見学と海水淡水化施設、テーマパーク、いちご狩り、酒造工場、土産物店への立ち寄りなど様々な組み合わせのツアーがあり、周辺資源との連携が図られている。



漢那ダム見学バスツアーのパンフレット

コラム

旅行会社等への情報提供は6ヶ月～3ヶ月前までに

旅行会社などによる民間ツアーは、旅行商品として販売するには企画・調整・募集と事前の準備が必要なため、6ヶ月～3ヶ月前までに、イベント情報(非公開部分の開放や放流情報など)を把握してもらう必要がある。放流などは、天候によって延期や中止になることもあるが、情報は早めに公開していくと効果的である。



■インフラツアーの企画・募集・催行の流れの例

周辺施設への誘致

◆ 地域の店で利用できる割引券を配布

(関東地方整備局 首都圏外郭放水路)

首都圏外郭放水路を見学に来た人に、近くにある道の駅内の店舗で利用できる割引券を配布し、インフラの来訪者を地域の他施設に誘導している。

また、集合場所に地域のパンフレットなどを設置するスペースを設け、地域資源を紹介している。

車で約5分 『道の駅庄和』でお得がいっぱい

首都圏外郭放水路 見学会特別サービス

見学会にて配布されるポストカード又は防犯カメラ映像カードを道の駅庄和までご持参頂くこと、お得なサービスが受けられます！

有効期間：平成30年11月1日(水)～11月30日(金)

近くにある道の駅で利用できる割引券

◆ 宿泊施設との連携（1）

(独立行政法人水資源機構 下久保ダム)

点検放流イベントの際に、通常は立ち入り禁止区域となっている空を、地元の宿泊施設に泊まった人のみに開放するという特典を設けて、宿泊利用を促している。

この年は50周年記念として放流前日にもダムマニアの講演会や宿泊施設でのダムカルタ大会など様々なイベントを実施している。



立ち入り禁止区域からの眺め

◆ 宿泊施設との連携（2）

(独立行政法人水資源機構 矢木沢ダム)

ダムまでの道が狭いため、多くの観光客が来るダムの放流イベント時には、駐車場を下流部に設けダムとの間をシャトルバスで送迎している。

指定した町内の宿泊施設の宿泊者には、優先的にシャトルバスに乗れるチケットを発行し、宿泊利用を促している。

また、宿泊施設の予約プランのひとつとして「ダム放流プラン」も設定されており、宿泊を考えている人にも目につきやすくなっている。



シャトルバスを待つ列



町内宿泊者限定のシャトルバスの優先乗車券

◆ やんばる9ダムスタンプラリー

(沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所)

沖縄県の北部には9つの国が管理するダムがある。このダムを全て訪れスタンプとダムカードを集めるとオリジナルカードや専用カードフォルダー等の景品がもらえる。

9つのダムを巡るため、地域への滞在時間が長くなり、地域への経済波及が期待できる。



スタンプラリーの台紙/専用カードフォルダー



多言語による解説

◆ スマートフォンアプリ活用

(関東地方整備局 首都圏外郭放水路)

日本語が話せず、専門用語での解説や通訳を介しての聞き取りが難しい訪日外国人旅行客向けに、スマートフォン用のアプリを開発し、自分のスマートフォンに見学前にダウンロードすると通信圏外となる調圧水槽内でも英語、中国語（簡体字、繁体字）の説明が見られるようになる。音声による案内も可能である。

事前に予習したり見学会の後で更に詳しく知りたい方への情報提供の役割も期待している。



英語・中国語で解説

日本らしさとの組み合わせ

◆ 日本ならではの体験とインフラ見学をセットで企画

(関東地方整備局 湯西川ダム)

日光市の栗山地域を拠点にしている旅行会社では、積極的にインフラツアーへ外国人を誘致している。ツアーのメニューは、猟師の話聞き、鹿肉を食べるプログラムや、着物体験、日本舞踊観賞といった日本ならではのメニューと、水陸両用バスを使ったダム見学をセットにしている。プログラムの内容については事前に英語での解説資料を用意している。

ダムのある山村の「ここでしか出来ないこと」と、日本らしいプログラムとを組み合わせることで、インバウンドのニーズを満たす工夫をしている。



山村でインバウンド向けツアーを実施

インスタ映えする写真で誘客

◆ SNS で海外まで伝わる魅力

(本州四国連絡高速道路株式会社 明石海峡大橋)

明石海峡大橋ブリッジワールドでは日本語の他に英語でのウェブページを用意している。中国語での説明ページはないものの台湾からの参加者が多く、外国人参加者の7割を占めている。

台湾からの参加者が明石海峡大橋の塔頂からの眺めの写真などをSNSで紹介しており、口コミ効果が広がったのではないかと推測される。魅力的な写真が撮れる場があると、広報をしなくても世界と繋がる可能性がある。

※SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）：ツイッター、フェイスブック、インスタグラムなど、インターネットや携帯回線を通じて不特定多数の人が交流を図るサービスの総称



非日常的な主塔からの絶景

4

先進事例の取り組み

3章では事例の中で参考になるポイントを勘所として紹介した。4章では先進的な事例について、取り組みの全体像がわかるように事例集として紹介する。

■ ハッ場ダム (群馬県) → P.33

工事中のダムで個人や団体、マニアや観光客など参加者の特性に応じた多彩なツアーを開催



■ 天ヶ瀬ダム (京都府) → P.43

地域連携 DMO による、市街地から歩いて行けるダムの観光資源としての活用



■ 鬼怒川上流ダム群 (栃木県) → P.35

水陸両用バスやキャットウォーク体験などのダムの堤体案内を民間事業者のみで実施



■ 明石海峡大橋 (兵庫県) → P.45

吊り橋の主塔に登るツアーでの、説明の工夫や高所における徹底した安全管理の実施



■ 首都圏外郭放水路 (埼玉県) → P.37

社会実験として民間運営見学システムを導入し、受入枠の増大やサービスの向上を実現



■ 中国技術事務所+休山トンネル (広島県) → P.47

技術事務所の防災施設見学と国道事務所の工事現場見学が連携してツアーの魅力をもつ



■ 宮ヶ瀬ダム (神奈川県) → P.39

定期的な観光放流の年間計画を定め、旅行計画を立てやすいように事前に周知



■ 小谷村砂防堰堤群 (長野県) → P.49

地すべり地区の砂防堰堤を観光資源として活かしたドボクアート砂防堰堤めぐりバスツアーを実施



■ 国道289号八十里越 (新潟県・福島県) → P.41

工事中の道路の見学会と地域の歴史や文化、自然などと組み合わせる日帰り、宿泊ツアーを実施



■ 第二海堡 (千葉県) → P.50

第二海堡上陸ツアーを本格実施するためにトリアルツアーを実施



ハッ場ダム

建設中ダムの多彩な見学ツアー



「やんば見放台」からダム工事の全景を望む



(上) 左岸のやんば見放台(展望台)へのアプローチ路は舗装され手すりもあり高齢者の方でも行きやすい
(下) 右岸のツアー用の展望台は仮設で整備されている



見学会ではより近くから見学できる

取り組みの概要

首都圏で唯一の大規模ダム建設工事現場において、「今だけ」「ここだけ」「あなただけ」をコンセプトに、「やんばツアー」と称する工事現場見学会をほぼ通年で開催。個人・団体向け等の多種多様なツアーを用意し、個人・団体がダム見学に立ち寄ることで地域内の飲食物販や、観光の機会を創出している。

2018年度の見学者数は大幅に増加し、約5.2万人(1月末)が来訪している。

経緯

- 2013 道の駅「ハッ場ふるさと館」開業
- 2015 ハッ場ダム本体建設工事起工式(2月)、一般向け工場現場見学会開始(8月)、「なるほど!やんば資料館」(8月)と展望台「やんば見放台」の開設(9月)
- 2017 ハッ場ダム観光プロジェクト「やんばツアー」開始、「教育旅行プログラム」開始、ハッ場ダムファン倶楽部発足(4月)、長野原町と跡見学園女子大学とが共同実施する「長野原町に新しい芽を出そうプロジェクト」(8月)
- 2018 ハッ場ダム観光プロジェクト「やんばツアー2018」を実施(下半期は、地元主催有料ツアー「プレミアム見学プラン」を新たに設定)

基本情報

【施設管理者】

国土交通省関東地方整備局 ハッ場ダム工事事務所
〒377-1395 群馬県吾妻郡長野原町大字与喜屋11番地
TEL 0279-82-2311(代表)

【事業主体】

- 「やんばツアー」
国土交通省関東地方整備局 ハッ場ダム工事事務所
[うち、地元主催ツアー]
・地元主催有料ツアー：地域在住ガイド
・ジオパーク見学会：長野原町
- 道の駅スタッフが案内する「ハッ場ダムツアー」
道の駅 ハッ場ふるさと館 (有料)

【施設の特徴】

- ◆ハッ場ダム(完成時)
堤高116.0m 堤頂長290.8m 重力式コンクリートダム

POINT 1 多彩な見学テーマとプレミアム感の演出



【やんばツアーズの概要】

ツアー構成は、「個人向け」、「団体向け」の2つの柱を立て、季節感も強く打ち出した内容となっている。参加者は自分達の興味や待ち時間に合わせて見学ツアーを選べるものになっており、それがリピーター獲得に繋がっている。個人ツアーは基本的に予約不要、団体は要予約となっている。

ツアー参加者は、一般に開放された「やんば見放台」とは別の箇所から見学でき、ツアー参加によるプレミアム感を演出している。

【やんばツアーズのメニュー】

多彩な見学ツアーは下表に示した10種類があり、個人用・団体用、無料・有料、予約有無など様々な条件から選べる。

参加しやすい見学ツアーを構成した結果、やんばツアーズを始めた2017年度は前年度の10倍の見学者が訪れるようになっている。(※1参照)



ダム完成後も観光の拠点となる道の駅・やんばふるさと館

■今までの見学会の発想を転換したインフラ観光5つの進化(2017年度)……見学者大幅増加へ(※1)

	進化のテーマ	内容
進化1	新登場! ご案内役「やんばコンシェルジュ」誕生!	ダム建設の歴史をドラマ仕立てで案内
進化2	日本一インフラ観光ツアー! 目的別に楽しめる合計10本の見学プランをご用意	リピーターの獲得も可能な多彩な商品づくり
進化3	日本でここだけ! ハッ場ダムならではの体験と記念特典開発	非売品をツアー参加者だけが手に入る仕組み
進化4	ダム見学受け入れ人数をなんとっ! 10倍に増強	メディア戦略を駆使して見学ツアー枠をほぼ完売
進化5	全国の鉄道・バス会社、旅行会社、学校、さらには地元観光地との連携を強化	半年程度前にツアー内容を公表し商品化を促進

■やんばツアーズ日本初10の目的別ツアー(2018年度下期版)(※2)

ツアー名	テーマ	プラン	定員	時間	予約	料金
ハッ場ダム季節限定見学会	魅力満載! 豊かな自然と深い歴史そしてダム見学	地元主催	20	-	要予約	有料
地元在住ガイドご案内見学会	地元を知りつくした地元在住ガイドが語るハッ場ダムと長野原の未来	地元主催	40	60分	要予約	有料
ハッ場ダムぶらっと見学会	お気軽にふら〜っと。選べる見学時間! 予約不要の見学会!	個人向け	40	40分	不要	無料
ハッ場ダム夜の現地見学会	幻想的! 今だけ! 暗闇に浮かびあがる光の工事現場	個人向け	40	50分	不要	無料
ハッ場ダムファン倶楽部見学会	ハッ場大好き! リピーターの方! 普通の見学会では物足りない方	個人向け	-	-	-	無料
ハッ場ダムジオパーク見学会	ハッ場ダムがジオパーク??	個人向け	-	-	-	無料
やんばコンシェルジュ御案内ツアー	まさに圧巻! ダムの巨壁が目前に迫る	団体向け	50	50分 又は 90分	要予約	無料
ハッ場最先端技術見学ツアー	学べる! ダム・防災技術 土木技術者・土木系学生集合	団体向け	50		要予約	無料
ヤンバインバウンドツアー	世界に誇る! 日本のダム・防災技術	団体向け	50		要予約	無料
やんば丸ごと体験ツアー	防災学習の機会を提供します 作って学んで育てる水防災意識社会	団体向け	100		要予約	無料

POINT 2 「見学会」から進化した「やんばツアーズ」



ツアー実施にあたり、ツアーブランド「やんばツアーズ」を立ち上げ、ハッ場地域のブランド化に取り組んでいる。

ツアーでは、事務所長が認定する地元在住の「やんばコンシェルジュ」が専用のユニフォームを着て、ダムや地域の案内を行っている。

また、一部の見学ツアーに参加する人は、カラーヘルメットを選択し好きな色のヘルメットをかぶって見学できるなど見学ツアーを楽める工夫を行っている。

2018年よりハッ場ダムのロゴマークを作成しチラシなどで使用している。

ツアー参加者には、工事進捗に併せて図柄が変わるダム(建設)カードやダム基盤部の石(川原湯温泉神社でお祓い済)等のお土産をプレゼントしている。

2017年度を取組として、一部見学会日程は半年前に公表した。(旅行会社のツアーの組み込みを可能としたもの)

POINT 3 ダム完成後をにらんだ地元主催ツアー



現在、インフラツーリズムは工事事務所が主体的に行っており、ダム完成後には地域が主導する見学会が実施できるよう、地元住民らが主催する2種類の有料ツアーが2018年下期より開始された。

季節限定見学会では紅葉等をテーマにダム完成前の今だけの景色を楽しむツアーを実施。地元在住ガイド見学会では、ナイトツアーとして建設現場と、地元を知りつくしたガイドが長野原町の未来を語るツアーが開催されている。(※2参照)

鬼怒川上流ダム群 (湯西川ダム・川治ダム) 五十里ダム

水陸両用バスやキャットウォークを 目玉とする民間ツアー



水陸両用バスによる湯西川湖（ダム湖）へのスプラッシュ



民間ツアーの目玉としている川治ダムの
キャットウォークの見学



五十里ダムの堤体内部にある国産第一号の
高圧スライドゲート

取り組みの概要

鬼怒川上流ダム群は、日光や鬼怒川温泉などの観光地に囲まれており、ダムを活用したインフラツーリズムが展開されている。特に、湯西川ダムのダム湖に水陸両用バスを浮かべ、ダム湖遊覧とダム堤体見学の組み合わせたツアーは、日本では初めての取り組みであった。

その後、地元有志らにより鬼怒川上流にある他のダムを活用した観光事業が検討され、現在、社会実験として川治ダムを中心に鬼怒川上流にあるダムを見学するツアーを、民間事業者で実施する取り組みが進められている。

【経緯】

湯西川ダムにおける水陸両用バス運行

- 2006 社会実験として水陸両用バスを川治ダム湖で運行
- 2008 水陸両用バス導入協議会を設立し民間主体の運行を開始
- 2013 湯西川ダムが完成し湯西川湖に場所を移して運行

【経緯】

川治温泉3ダム見学ツアー

- 2017 JR東日本の旅行促進キャンペーンあわせ、川治温泉活性化の1つとして民間事業者による川治ダムのキャットウォークを目玉とするツアーを社会実験として実施

基本情報

【施設管理者】

国土交通省関東地方整備局
鬼怒川ダム総合管理事務所
〒321-0905
栃木県宇都宮市平出工業団地 14-3
TEL 028(661)1341

【実施主体】

- 湯西川ダムにおける水陸両用バス運行
NPO 法人日本水陸両用車協会
- 川治温泉3ダム見学ツアー
有限会社ネイチャープラネット

【施設の特徴】

- ◆ 湯西川ダム 2013年完成（国管理）
堤高 119m 堤頂長 320m
重力式コンクリートダム
- ◆ 川治ダム 1981年完成（国管理）
堤高 140m 堤頂長 320m
アーチ式コンクリートダム
- ◆ 五十里ダム 1956年完成（国管理）
堤高 112m 堤頂長 267m
重力式コンクリートダム
- ◆ 小網ダム 1958年（栃木県管理）
堤高 23.5m 堤頂長 128m
重力式コンクリートダム

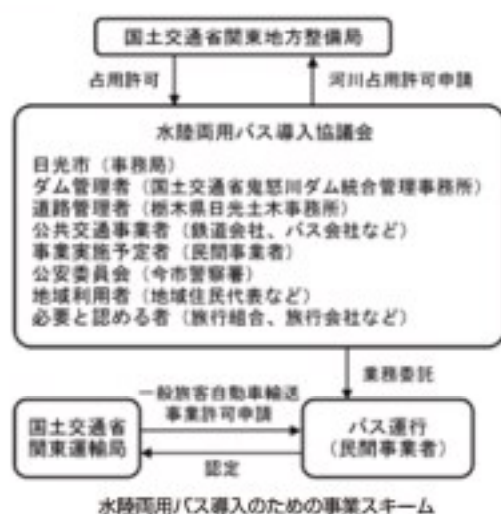
POINT 1 湯西川ダム・水陸両用バス導入協議会の設立



湯西川ダムは、ダムを活用して地域活性化に寄与するため、ダムの工事段階から水陸両用バスの導入が検討されていた。

そこで、2008年に「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づき、ダムを活用した観光活性化や、地域公共交通の活性化及び再生を図ることを目的に「水陸両用バス導入協議会」（会長：日光市長）を設立し、地域の合意を得て、民間事業者となる水陸両用バス運行組織がダム湖およびダム堤体の案内を実施する仕組みを構築した。

この水陸両用バス導入協議会の事務局である日光市が、河川法を踏まえ河川管理施設となるダム施設やダム湖への進入路を占用し、水陸両用バスの運行を民間事業者者に業務委託することで、民間事業者がダム施設やダム湖を利用して事業を展開している。なお、業務委託料ではなく、民間事業者が自らの運行収入で利益を確保している。



湯西川ダムの天端からエレベーターに乗り、ダム内部を案内。案内やエレベーターの操作は、民間事業者が実施

湯西川ダムにおけるダム湖遊覧とダム見学の概要

コース 道の駅⇒ダム湖遊覧⇒ダム堤体見学
⇒道の駅（代表ルート）

〔開催期間〕4月～12月（土日祝日も含む）

〔所要時間〕70～80分 一日5便（5便目は夏季のみ）

〔参加料金〕大人3,000円 子供2,000円（2018年時点）

POINT 2 水陸両用バスの利用者の7割が地元で宿泊



湯西川ダムにおける水陸両用バスは、年間約2万人の利用者があり、利用者アンケートによると、約7割が宿泊を伴う旅行形態で、その多くが地元の温泉に泊まっている。このように、水陸両用バスの導入は、新たな観光資源の創出だけでなく、地元温泉街への宿泊者確保にもつながっている。

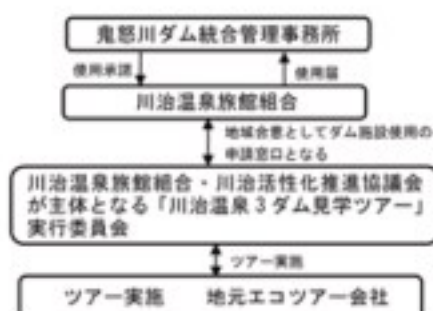
POINT 3 エコツアー会社によるダム見学の実施



2017年度から3年間、栃木県を売り出すJR東日本のキャンペーンをきっかけに、鬼怒川上流にあるダム群（川治ダム / 国管理、五十里ダム / 国管理、小網ダム / 県管理）を観光資源として売り出すことを地元有志らが企画し、日光市観光協会を通じて取り上げてもらうこととなった。

そこで川治ダムでは、地元有志らがダム施設見学の方法をダム管理者と協議し、ダム管理者が平日にダム見学を受け入れていたが、土日における開放も含め社会実験として民間事業者（地元エコツアー会社）の社員のみでダム見学を実施していくこととした。

なお、民間事業者のみでダム堤体内やキャットウォークの見学ツアーを実施するため、事前にダム管理者がダム見学の案内や安全管理などの研修を民間事業者の案内要員向けに実施し、トラブルが起きないように注意点などを共有している。



川治温泉3ダム見学ツアーの事業スキーム（2017年時点）

川治温泉3ダム見学ツアーの概要

コース 川治ふれあい公園⇒小網ダム⇒五十里ダム堤体見学
⇒川治ダム（キャットウォーク）⇒川治ふれあい公園

〔開催期間〕4月～6月（土日祝日のみ）

〔所要時間〕120分 一日1回

〔参加料金〕大人3,000円 中学生以下2,000円

首都圏外郭放水路

民間運営見学システムによる 受け入れ体制の強化



地下神殿コンシェルジュによる説明。庄和排水機場に併設された広報施設「龍Q館」に展示してある大型のパネルを使って首都圏外郭放水路の仕組みについて説明



龍Q館での説明後、調圧水槽（地下神殿）に移動し入口では安全管理に関する注意事項やカウンターを使って人数の入念なチェックを行う



「地下神殿」とも称される調圧水槽での見学会の風景

取り組みの概要

「国の防災施設を官民連携で世界一の観光資源に育てる」ことを目指して、2018年8月1日より「民間運営見学システム」の社会実験を開始した。民間旅行会社により、土日祝日を含めた毎日7回のツアーを開催し、見学枠を5倍に拡大することができた。専門のガイドを育成・配置し、ツアー商品受け入れや春日部市内の施設や農園への誘導等の取り組みも行っている。

【経緯】

- 2003 ・地底探検ミュージアム「龍Q館」開館
- 2014 ・見学会開始
- 2016 ・土曜見学会を月1回実施。1日3回の見学会の内1回について定員を25名から50名に拡大（6月～）
- 2017 ・土曜見学会を月2回に拡大実施（4月～）
・首都圏外郭放水路利活用懇談会開催
- 2018 ・首都圏外郭放水路利活用協議会設立
・首都圏外郭放水路（庄和排水機場／龍Q館）を都市・地域再生等利用区域に指定
・首都圏外郭放水路の利活用について連携する事業者を募集
・首都圏外郭放水路利活用協議会と東武トップツアーズ株式会社と連携協定を締結（5/1）
・「民間運営見学システム」による社会実験（8/1～12/26、公開回数の拡大：1日7回）

基本情報

【施設管理者】

国土交通省関東地方整備局 江戸川河川事務所
〒278-0005 千葉県野田市宮崎 134
TEL 04-7125-7311（代表）

【事業主体】

首都圏外郭放水路利用活用協議会：江戸川河川事務所、春日部市、庄和商工会、春日部商工会議所、春日部観光協会）

【企画運営】

東武トップツアーズ株式会社

【施設の特徴】

- ◆首都圏外郭放水路
- ・2006年全区間完成・全面供用開始
- ・国道16号の地下約50mに建設された延長6.3kmの世界最大級の地下放水路
- ・「地底探検ミュージアム龍Q館」が排水機場に併設

※記載内容は2018年8月～12月の社会実験について

POINT 1 民間運営見学システムの導入による体制強化



〔民間運営見学システムの導入〕

首都圏外郭放水路の見学会は、施設管理者である国が開催しており、好評で予約がなかなか取れない状況が続いていた。また、見学希望者から、平日だけでなく土日祝日の開放や団体見学（バスツアー等）の受け入れの要望が寄せられており、政府が掲げる「公共施設・インフラの大胆な公開・開放」の施策を実現するためにも、土日祝日の開放や更なる見学会拡大の方策を検討する必要があった。そこで、民間事業者が河川区域内で営業活動ができる制度（河川法に基づく河川敷地占用許可準則）を活用し、見学会を民間事業者の運営とすることとした。

〔運営組織づくりと有料化〕

2018年2月に江戸川河川事務所、春日部市、春日部商工会議所、庄和商工会、春日部市観光協会で「首都圏外郭放水路利活用協議会」を設立。

この協議会で社会実験による民間開放に向けた枠組みについて協議し、公募を経て東武トップツアーズ（株）と連携協定を結び、民間事業者が見学会の企画運営を担うこととなった。民間事業者が運営することになり、見学会を有料化し、ガイド要員の確保等に資した。

〔体制強化による受け入れ枠の拡大〕

民間事業者の運営により、今まで実施できなかった土日祝日にも見学会を開催し、受け入れ枠を大幅に拡大した。その結果、社会実験を行った8～10月の見学者数を比較すると前年度の約4倍に増加。受け入れ枠が広がったことから旅行会社のバスツアーも受け入れ、地元の道の駅にも立ち寄るようになるなどの地域への経済波及効果も発揮している。

対前年度見学者数との比較

数字は見学者数（開催回数）

	8月	9月	10月	3ヶ月合計
2017	2,232人 (79回)	1,659人 (52回)	1,844人 (49回)	5,735人 (180回)
2018	9,784人 (192回)	5,977人 (190回)	6,401人 (201回)	22,162人 (583回)
対前年比	4.3倍 (2.4倍)	3.6倍 (3.7倍)	3.5倍 (4.1倍)	3.86倍 (3.2倍)

POINT 2 地下神殿コンシェルジュの育成・配置



案内要員を地下神殿コンシェルジュとして研修を行い育成している。解説内容は江戸川河川事務所が作成した広報資料をベースに、わかりやすく改良しながらレベルアップを図っている。

社会実験〈見学会〉の取組概要

〔開催期間〕

2018年8月1日～12月26日、毎日開催

1日7回 ①10:00 ②11:00 ③12:00 ④13:00
⑤14:00 ⑥15:00 ⑦16:00

〔所要時間〕50分 〔募集人員〕50名/回

〔参加料金〕一人650円（8月は特別価格500円）

〔申し込み〕webまたは電話

（参加希望日の1ヶ月前の同日 11:00 から）

POINT 3 プレミアム感が感じられるPRの工夫



多くの人に「面白そう！」と興味を持ってもらえるように、社会実験の内容を「PREMIUM」と表現するなど企画内容と表現方法を十分に検討してPRした。

PREMIUM

- PREMIUM 1** 日本初！大胆な防災インフラ観光への挑戦。わかりやすい解説と楽しいサービスを目指す社会実験。
- PREMIUM 2** ご要望の多かった土日・祝日も見学会を実施。入場者枠を一挙に5倍に増やし、月間約10,000人体制に拡大。
- PREMIUM 3** 迫力の「巨大鑿穴（第1立坑）」を新たに見学コースに追加。深さ70m×内径30m このスケールを是非体感して下さい。
- PREMIUM 4** 洪水時に機能する地下神殿。防災機能を発揮する地下河川の姿をご覧いただけます。
- PREMIUM 5** 現実では見ることができない洪水時の地下神殿の様子を最新のARコンテンツで疑似体験していただけます。
- PREMIUM 6** 大人気のダムカードを新たに「河川カード」として開発。ここだけの防災地下神殿カードを発行。
- PREMIUM 7** 新たなインバウンド向け見学システム「インフラガイド多言語音声アプリ」をご覧いただけます。※日本語・英語・中国語（簡体字、繁体字）
- PREMIUM 8** バスツアー解禁！団体見学と学校見学も全ての曜日受付致します。

〔洪水の時だけの特別見学プランの用意〕

以前は洪水時には見学会を中止していたが、見学者の安全を確保した上で、洪水時にも防災機能を発揮している姿を上部のキャットウォークから見せる見学会を開催し、「その時だけ見られる」という見せ方に転換した。



洪水時に水を貯めている状況の見学

宮ヶ瀬ダム

定期的な”観光放流”による誘客



子供から高齢者まで観光放流には多くの人が訪れる



ダム天端からの眺め

愛川町のイベントとして開催されたナイト放流ダム下を会場として舞台が多数出店



「宮ヶ瀬クリスマスみんなのつどい」には 81万球のイルミネーションが飾られ毎年多数の来訪者がある

(写真提供) 宮ヶ瀬湖写真コンテスト特別賞「冬の宮ヶ瀬湖を彩る」中根英治

取り組みの概要

宮ヶ瀬ダムでは、年間約70日の定期的な観光放流を実施し約10万人の見学者を招き入れている。

また、ダムの完成前から神奈川県・地元自治体・小田急電鉄等の民間企業・漁協などにより、1992年公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団が設立され、関係機関の調整を図りながら周辺圏地の管理運営を実施している。

財団は、2017年に観光庁から観光地域づくりの舵取り役である「日本版DMO法人」として登録され、宮ヶ瀬ダムを中心とした周辺地域を観光資源として積極的に売り出している。

【経緯】

- 1992 財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団 設立
- 2002 観光放流開始
- 2011 公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団として登記
- 2017 財団が「日本版DMO法人」として登録

基本情報

【施設管理者】

国土交通省関東地方整備局
相模川水系広域ダム管理事務所
〒252-0156
神奈川県相模原市緑区青山字南 2145-50
TEL 046-281-6911 (代表)

【見学場所の管理運営】

公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団

【施設の特徴】

- ◆宮ヶ瀬ダム 2001年完成
- 堤高 156m 堤頂長 375m
- 重力式コンクリートダム

POINT 1 観光放流の事前周知



1回6分間の観光放流を定期的に行っており、観光放流の実施日は年度当初に年間実施日カレンダーでダム管理事務所や宮ヶ瀬ダム周辺振興財団のウェブサイトやチラシ等で公表・周知している。

事前に周知することにより、観光放流を見学する旅行ツアーや下流地域の学校の見学会等の企画に組み込まれ、年間10万人を超える見学者を集客している。

観光放流は、地域振興の一環として行われており、下流には副ダムである石小屋ダムがあるため、観光放流により下流の中津川に影響を与えることがなく定期的に実施することができている。



多くの学校や幼稚園などが観光放流を目当てにバスで来場

POINT 2 観光放流の視点場の確保と移動の楽しみ

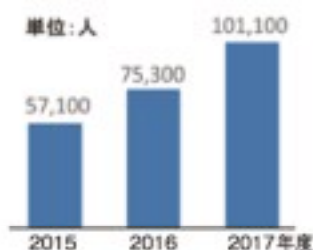


観光放流の視点場としてダム下の広場や下流に架かる橋梁が開放されており、安全に放流が見学できる。

ダム堤体の上下間の移動は、インクラインやエレベーターがあり様々な移動手段が楽しめる。

さらに、2018年度はダム堤体横のフーチング階段(管理用階段)を観光放流と併せて開放し、歩いて移動すること自体をイベントにしている。

また、観光放流を見るダム下流の広場には、隣接する県立公園の駐車場からロードトレインが運行されており、誰でも気軽に観光放流を見に来ることができる。



ダムの放流特見学者の推移

ダム見学の概要

観光放流：[開催日] 4～11月毎週水曜日

ダム見学：見学自由。ただし水とエネルギー館の説明や大型バスの駐車場は要予約。

内部の見学は森と湖に親しむ旬間の期間のみ。

POINT 3 管理運営組織の確立と地域との連携



ダム湖には2つの園地と1箇所の都市公園があり、これらを公益財団法人宮ヶ瀬ダム周辺振興財団が一括して管理運営していることで統一感のある催しができている。

各園地を結ぶシャトルバスや遊覧船の運行は財団が行い、それぞれの園地を結び、遊びの幅を広げて滞在時間の増加を狙っている。

また、愛川町主催のイベントでナイト放流を開催し、周辺地域への宿泊を促している。

〈ダム周辺を楽しむ様々な移動手段〉



遊覧船



シャトルバス



エレベーター



フーチング階段



ロードトレイン



インクライン

国道289号 八十里越

工事現場見学と
周辺観光資源の組み合わせ

峠のトンネルや橋梁の工事現場を見ることができ

7号橋梁工事現場見学

基本情報

【「秘境八十里越体感バス」実施主体】

三条市経済部営業戦略室

【事業実施者】

国土交通省北陸地方整備局 長岡国道事務所
〒940-8512 新潟県長岡市中沢 4-430-1
TEL 0258-36-4551

新潟県三条地域振興局

福島県南会津建設事務所

※新潟県施工、福島県施工区間は工事概成。

【協力機関】

八十里越道路暫定的活用検討懇談会
事務局：三条市経済部営業戦略室

【事業の概要】

- ◆一般国道289号 八十里越
延長 11.8km (直轄権限代行)
起点：新潟県三条市
終点：福島県南会津郡只見町

取り組みの概要

一度途絶えた会津と越後の道が時を超えて再び結ばれる「国道289号八十里越」の工事見学を通じ、事業の効果・必要性を感じてもらうとともに秘境八十里越の最大の魅力である「あふれる自然」や「河井継之助にまつわる歴史ロマン」を実際に体感してもらい、「秘境八十里越体感バス」を開催。三条市がツアー企画を主導し民間がツアーを実施している。

【経緯】

- 1989 工事着手
- 2012 八十里越道路暫定的活用検討懇談会設立
- 2013 八十里越・体感バス開始
「三条市が主催する八十里越工事見学会の実施に関する覚書」締結 (長岡国道事務所・三条市)

POINT 1 インフラ見学と地域資源を連携させたツアーづくり



八十里越は冬期間の工事期間制約や急峻な地形のため難工事であるが、新潟県と福島県を結ぶ安全性・信頼性の高い交通網の必要性や目的を、周辺住民の方々に知っていただき体感していただくことで、早期開通に向けての気運を高めることができれば…との思いで、新潟県三条市が「感じよう、あふれる自然・歴史ロマン・未来へつなぐ土木技術」をテーマに秘境八十里越体感バス事業を企画した。

工事現場見学だけでなく、体感バスに付加価値を付けて旅行商品として売り出すために、自然や歴史、伝統芸能など地域の様々な観光資源と結び付けている。

体感バス事業は、三条市が企画コンペで旅行会社を選び委託している。工事現場以外に立ち寄る観光資源はアンケート等を参考にして、三条市が推薦し、それらを結ぶルートのお楽しみ方を旅行会社とともに検討している。

三条市が企画を主導しているが、只見町を含めた他地域と連携し地域全体の振興につなげている。

見学の概要

- 【開催期間】 6月～11月
 - 【所要時間】 3時間～1泊2日
 - 【参加費用】 大人 2,600～12,000円
 - 【コース】
 - 半日コース 道の駅→工事現場→道の駅
 - 1泊2日 道の駅→周辺資源の立ち寄り→宿泊→工事現場→周辺資源の立ち寄り→道の駅
- ※コースによって変化



工事中の橋梁の見学



秘境八十里越体感バスのうち、複数の



歴史的資源である旧叶津番所に立ち寄る便

■八十里越ツアーにおける周辺観光資源との連携



POINT 2 三条市・只見町を事務局とする活用検討懇談会を設立



2010年度に県境トンネルが開通し限定的に両県の往来が可能となったことを契機に、2012年に行政及び観光関係組織らによる「八十里越道路暫定的活用検討懇談会」を設立。この懇談会で2013年から実施する八十里越体感バス事業について協議を開始した。

山間部の工事見学は、道幅が狭く見学バスのすれ違いが難しいこと、また、工事を実施していない日に限定して運行していることから、これらの制約を調整し、安全で余裕ある体感バス事業を実施するための協議を行っている。

これらの調整の結果、年間16回程度の体感バス事業が開催されている。また、参加率が悪い便は、行政担当と旅行会社で原因を探り、翌年の体感バス事業に反映させている。

《秘境八十里越体感バスの旅行商品》

体感バス便名	「八十里越工事見学」以外の立ち寄り場所	予約	定員	所要時間
あふれる自然～太古の遺物“ブナ林”と八十里越古道トレッキング	ブナ林や八十里越古道トレッキング	先着	15名	1泊2日
歴史ロマン～戊辰戦争の史跡をめぐる旅	古戦場、戊辰戦争史跡めぐり	抽選	15名	1泊2日
環境に共存するダム技術をめぐる旅	笠振ダム、大谷ダム、発電所、田子倉ダム、第二沼決発電所	抽選	15名	1泊2日
神に捧げる檜枝岐奉納歌舞伎と自然の宝庫を訪ねて	歌舞伎伝承館、ミニ尾瀬公園	抽選	45名	1泊2日
戊辰戦争終結150年記念企画・河井継之助の足跡を辿る八十里越踏破の旅	八十里越踏破、旧叶津番所、河井継之助記念館	抽選	15名	1泊2日
八十里越・六十里越街道ぐるり旅	JPOWER 只見展示館、田子倉ダムレイクビュー、六十里越峠開通記念碑	抽選	162名	1日
河井継之助の軌跡・八丁沖ウォーク	赤坂峠古戦場の跡、河井継之助記念館、八丁沖ウォーク	抽選	21名	1日
未来へつなぐ歴史の道・国道289号工事見学ツアー	(八十里越工事見学のみのツアー)	先着	840名	3時間

天ヶ瀬ダム

市街地から歩いて行けるダムの 地域連携DMOによる活用

(※1)



クレストゲートからの点検放流



キャットウォークから点検放流を見学



キャットウォークの歩行体験

取り組みの概要

2017年3月に山城地域12市町村の観光振興を図る「お茶の京都DMO」が設立。

お茶の京都DMOでは地域の新しい観光資源として京阪宇治駅から3.3km（徒歩約40分）の距離にある天ヶ瀬ダムに着目。最初にニーズ調査として天ヶ瀬ダムツアーを企画し、十分ニーズと満足度があることを把握した。

次に地域経済に寄与する旅行商品として天ヶ瀬ダムと高山ダムを結ぶツアーを開発し、定着させようと取り組んでいる。

【経緯】

- 2016 天ヶ瀬ダムプロジェクションマッピング実施
- 2017 お茶の京都DMO設立
- 2018 天ヶ瀬ダムを見に行こう（お茶の京都DMO主催）
天ヶ瀬ダム・高山ダム特別見学（京都京阪バス主催）

基本情報

【施設管理者】

国土交通省近畿地方整備局
淀川ダム統合管理事務所
〒573-0168
大阪府枚方市山田池北町10-1
TEL 072-856-3131

【実施主体】

国土交通省近畿地方整備局
淀川ダム統合管理事務所・天ヶ瀬ダム管理支所
高山ダム管理所（独立行政法人水資源機構）
お茶の京都DMO、京都京阪バス

【施設の特徴】

- ◆天ヶ瀬ダム 1964年完成
堤高73m、堤頂長254mのドーム型
アーチ式コンクリートダム
- ◆高山ダム 1968年完成
堤高67m、堤頂長209m
アーチ重力式コンクリートダム

(※1) DMO

(Destination Management / Marketing Organization)

：観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと

POINT 1 ダムを観光資源と捉える契機となる社会実験の実施



天ヶ瀬ダムを観光資源として位置づける大きなきっかけとなったのは、2015年に国土交通省近畿地方整備局が若手職員を対象にプロジェクトを募集した「近畿の夢100プロジェクト」である。職員から出されたアイデアを「天ヶ瀬ダムプロジェクションマッピング～天ヶ瀬ダム観光資源化社会実験～」と称して、ダム堤体をスクリーンにして、プロジェクションマッピングとして実現することになった。

淀川ダム統合管理事務所が主催し、宇治市、宇治商工会議所、宇治市観光協会が後援となり、プロジェクションマッピングの実績のある京都精華大学の協力を得て実現した。

平等院付近からバスで移動し、チラシを大学生がデザインしたりダムテラスなどでおもてなしをした。

社会実験にモニターとして1日700名を募集し、2016年8月6日、7日の2日に渡って実施した。モニターは定員を超える応募があり、2日間で約1,200人が観覧した。



天ヶ瀬ダムが観光資源として活用されたプロジェクションマッピングイベント

ツアーの概要

天ヶ瀬ダム・高山ダム特別見学

〔開催期間〕 随時（不定期開催）

〔所要時間〕 約9時間（昼食付き）

〔参加費用〕 大人6,800円 小人6,300円

〔コース〕

宇治周辺鉄道駅→天ヶ瀬ダム（キャットウォーク）→西の山展望台（宇治田原のお茶畑展望）→笠置いこいの館（ダムカレーのご昼食）→高山ダム→道の駅お茶の京都みなみやましろ村（お買物など）→宇治周辺鉄道等

POINT 2 DMOによるインフラツーリズムへのニーズ調査



旅行会社、宇治市、京都府からの出向職員で構成される「お茶の京都 DMO」は、新たな地域の観光資源の発掘と商品化をミッションとしており、その対象としてダムに着目した。

2018年5月に、まずニーズ調査の位置づけで500円のツアーを社会実験として4回企画した。マスコミ報道もあり、40人×4回のツアーの定員は2日間で埋まり、2.4倍の申し込みがあった。アンケートを実施して、ニーズ、満足度ともに十分であることを把握した。

POINT 3 ダムをテーマとした旅行商品開発



次のステップとして、地域経済に寄与し得る旅行商品の開発に取り組んだ。

企画のねらいは宇治市まで来た観光客を京都府南部まで連れて行くことで、広域連携の観点で天ヶ瀬ダムと高山ダムを組み合わせて行程を作成した。

天ヶ瀬ダムの見学では淀川ダム統合管理事務所と宇治市観光協会・宇治観光ボランティアガイドクラブとの間で連携・役割分担を行い実施した。

地域での経済効果を期待して、南山城村の道の駅で買い物をしていただき、昼食は笠置町で高山ダムのダムカレーを食べていただいた。ダムカレーはこのツアーにふさわしい昼食として「笠置いこいの館」に依頼して考案した。商品化にあたっては高山ダム管理所長がダムの特徴などについてアドバイスをを行った。ツアー用に特別に提供する予定であったが、好評だったため定番化して提供するようになった。

ツアーは大変好評で、今後も継続的に実施することとしている。



高山ダムの見学



天ヶ瀬ダムと高山ダムの位置関係

明石海峡大橋

徹底した安全管理が支える ブリッジワールド



主塔の上からの眺め（神戸市側をのぞむ）



主塔まで約1Km、海の上の管理用通路を歩いて行く。

取り組みの概要

道路事業に対する理解を深めるとともに、橋梁の建設・管理の技術への関心を高め、ひいては利用促進や地域振興につながることをねらいとして2005年から「明石海峡大橋ブリッジワールド」を開催している。

2018年までの14年間でおよそ12万人が参加。海上300mからのパノラマは絶景で、ガイド内容も充実しており、予約がなかなかとれないほど人気となっている。

【経緯】

- 2004 主塔登頂ツアーを4ヶ月間試行。
- 2005 「明石海峡大橋ブリッジワールド」として主塔登頂ツアーを本格実施。

基本情報

【施設管理者】

本州四国連絡高速道路株式会社
〒651-0088
神戸市中央区小野柄通 4-1-22
TEL 078-291-1000（代表）

本州四国連絡高速道路株式会社 神戸管理センター

〒655-0852
神戸市垂水区名谷町 549 番地
TEL 078-709-0084（代表）

【実施主体】

本州四国連絡高速道路株式会社

【施設の特徴】

- ◆明石海峡大橋 1998年完成
- ・神戸市と淡路島の間の明石海峡に架かる吊り橋
- ・橋長3,991m
- ・主塔高さ297m（吊り橋における世界最高）
- ・中央支間長1,991m（吊橋における世界最長）

POINT 1 徹底した安全管理が支える見学会



海上300mの主塔ツアーは眺めがよく、年間約1万人が参加する大人気ツアーである。

万が一、主塔見学中に下の道路に荷物などが落ちれば通過している車両にあたり、事故が発生するため、徹底した安全管理を実施している。

〔参加条件の設定〕

参加には条件があり、小学生以下の子どもは参加不可、中学生は保護者同伴としている。また、階段の上り下りと2Km以上の歩行ができる体力があることを条件としている。

〔持ち物制限と落下防止対策による安全確保〕

両手を使える状態にするためにリュック以外に荷物は持たないように案内し不要な荷物は会場で保管する。リュックが無い場合は貸与品を用意している。

さらに、ポケットがたくさんついたベストを貸与し、小物や貴重品をしまうように案内している。携帯電話やカメラは、用意しているネックストラップに固定するように促している。



説明会場では、無線イヤホン、ヘルメット、誓約書を渡す

〔ガイドスタッフと安全担当スタッフの配置〕

ガイド役は明石海峡大橋の建設に関わった様々な企業のOBが務めており、参加者を10名ほどの班に分けて、それぞれに1名のガイドスタッフをつけている。その他に安全担当スタッフが2名ツアーに参加し安全確保に目を光らせている。

解説は無線イヤホンを通して聞くスタイルで、ガイド役周辺に人が集中すること無く余裕を持って聞くことができる。



ツアー開始時にはガイドスタッフの紹介があり、参加者はどのガイドに誘導されるかを確認して、迷うことなくツアーを楽しむ

ツアーの概要

〔開催期間〕 4月～11月の木曜～日曜・祝日※
1日2回(午前・午後)

〔所要時間〕 2時間40分

〔募集人員〕 48名/回(2018年までは42名/回)

〔参加料金〕 一人3,000円、中学生1,500円

※団体は毎月第4水曜日に受入れ。

POINT 2 現場で余裕をもって安全に楽しむ



はじめに説明会場でビデオを15分間見て、次に橋の科学館で模型等を見ながら20分間の説明を聞き、道路事業の意義や橋梁建設技術の素晴らしさの理解を深めてから主塔に登る。

主塔や管理用通路では難しい説明をせず、あわてないよう時間に余裕をもって安全に写真を撮影したり、自由に風景を楽しんだりできるようにしている。



橋の科学館で模型を見ながら説明

POINT 3 安全性を高めたインバウンド対応



ツアー参加者による主塔からの眺め等の写真がネット上で紹介され、それを見たアジアを中心とした外国人参加者が増えており、参加者の2割近くが海外からの参加者となっている。

これを受けて、海外からの参加があるときは英語で対応できる人員が配置され、見学前の準備の手伝いや見学中の安全に気をつけた案内をしている。英語、中国語、韓国語での音声案内機器も用意している。

このため、海外の方も安全にツアーを楽しむことができる。



海外からの参加者による記念撮影

中国技術事務所+国道185号休山トンネル

複数の主体が提供する体験を
組み合わせたインフラツアー



中国技術事務所の降雨体験（100mm/h）



工事中の休山トンネルの見学



バックホウの遠隔操作体験

取り組みの概要

中国技術事務所が自分の施設でできる防災体験・防災施設見学と、他に組み合わせできない管内に照会し、当時施工中であった休山トンネル改良工事の見学を組み合わせ、旅行会社が募集して2017年11月27日に実施した。

【経緯】

- 2015 休山トンネル掘削開始
- 2017 中国技術事務所の提案でインフラツアーを実施
- 2019 休山トンネル開通

基本情報

【施設管理者】

国土交通省中国地方整備局 中国技術事務所
〒736-0082
広島県広島市安芸区船越南 2-8-1
TEL 082-822-2340

国土交通省中国地方整備局 広島国道事務所
〒734-0022
広島市南区東雲 2丁目 13-28
TEL 082-281-4131

【実施主体】

国土交通省中国地方整備局 中国技術事務所
国土交通省中国地方整備局 広島国道事務所
クラブツーリズム株式会社広島旅行センター

【施設の特徴】

- ◆中国技術事務所
防災対策車、降雨体験機、排水ポンプ車、分解組み立てバックホウ、照明車、対策本部車、橋梁点検車（バケット式）を所有
- ◆休山トンネル改良工事
2車線を4車線に拡幅するため、既存トンネルと平行してトンネルを掘削（トンネル延長 1.7km）

POINT 1 複数の事務所の 体験を組み合わせる



中国技術事務所は防災センターとして、災害時に出動する排水ポンプ車、分解組み立てバックホウ、照明車、対策本部車など、普段あまり目にする事のない災害対策車両を有している。また、降雨体験の装置などもあり、中国技術事務所では、これらを活用した体験をインフラツアーとして組み立て、旅行会社を通して一般の参加者を募集することを企画した。

民間旅行会社に依頼して商品化を進めることとしたが、技術事務所の体験だけでは一般参加者に訴求するには充分ではないと考えて、中国地方整備局管内に何かインフラツアーとして体験ができる案件がないか照会をかけた。当時、施工中であった休山トンネルの改良工事が見学可能とのことで、両者を組み合わせてツアーを企画することとした。



洪水等の被害が予想される時に出動する排水ポンプ車の見学

POINT 2 旅行会社による商品化



中国技術事務所は、インフラツーリズムに実績のあった旅行会社を介してインフラツアーを旅行商品化した。

この旅行会社の特徴として「他ではできない体験」の提供をあげており、以前から「大人の社会科見学」などのツアーをシリーズで提供している。

工事見学は、工事が終わるまでの期間限定のコンテンツであること、また工事の進捗によって、その都度企画の変更が必要なこと、工事条件にあわせると催行回数に限りがあることなどがあるが、その時だけというプレミアム感がある。

旅行会社としても、「他ではできない体験」の提供が会社の独自性としてPRにつながることから積極的にインフラツーリズムに取り組もうとしている。

ツアーは防災技術センターと休山トンネルの見学の日帰りツアーで、旅行料金は3,990円とした。ホームページと新聞折り込みチラシで募集したところ22名の参加があった。休山トンネル工事の説明は、広島国道事務所、建設会社が行った。

コース番号 A5629-720
国土交通省 中国地方整備局の 協力により実施
呉市で掘削中! 休山トンネル内の見学と【日帰り】災害時活動車両の展示「防災技術センター」
旅行代金(おひとり) 3,990円
出発日 11月27(月)
A5629-720
ツアー
トンネル先頭
A5629-720を入力!

新聞折り込みチラシに紅葉狩りやカニ食べ放題の旅行商品などと同列に掲載

POINT 3 トンネル工事見学の 面白さ



見学会を実施した時の休山トンネル工事においては、掘削したばかりの段階、防水シートを張った段階、コンクリートを打設した段階など複数の施工段階を同時に見せて、土木構造物ができていく面白さや物語性を感じ取ることができる状態だった。

トンネル内部に見学者を入れる場合は、工事の施工スケジュールの調整が必要だったり催行回数が限られたりするが、今だけしか見られない、という点は観光資源として価値が高い。



機械による束掘りの状態



コンクリート打設前で防水シートを貼った段階

お たり むら 小谷村砂防堰堤群

地すべり地帯を逆手にとった 砂防堰堤めぐりバスツアー



現代アートのようなさまざまな形をした砂防堰堤群

取り組みの概要

小谷村は糸魚川静岡構造線上にあり急峻な地形と、脆弱な地質であるため、1995年の豪雨災害を始め、何度も土砂災害に見舞われてきた。

その対策として形状や工法が様々な砂防堰堤が数多く整備されてきた。これらの砂防堰堤から厳選して、アートに見立てて、「小谷村ドボクアート砂防堰堤めぐりバスツアー」を着地型旅行商品としている。

ツアーは 8:30 ~ 16:00 昼食付 6,500円/人

POINT 1 土木施設の価値が ダイレクトに伝わるツアー



【様々な形状のインフラの組み合わせ】

小谷村では土砂災害に対応するため砂防堰堤を多数建設してきた。村の中心を流れる矩川の東西で地質が違ふこと、砂防の技術が進化してきたことにより、様々な形状や工法の砂防施設が建設されている。ツアーでは10種類の砂防施設を巡り、これを長野県の砂防事業を行ってきたOBがガイド解説することで、砂防堰堤の意義と造形の面白さが理解できるユニークなツアーとなっている。また、普段は立入禁止の場所にガイドと共に入ることで特別なプレミアム感がある。

【ツアーでしか行けないプレミアム感】

砂防施設は人が行かない山奥の場所に多いため、舗装がされていない作業道しかない所も多く、ツアーの前には未舗装路の草刈りや路上の落石、倒木の除去等を行わなければならない手間もかかる。

このような作業道の中には、4WDのマイクロバスでスイッチバックをしなければ行けないような砂防施設もあるが、それがかえて非日常的な体験として好評である。

基本情報

〔施設管理者〕

長野県矩川砂防事務所

〔実施主体〕

一般社団法人 小谷村観光連盟

〒399-9494

長野県北安曇郡小谷村 中小谷丙 131

TEL 0261-82-2233

POINT 2 ウィンタースポーツの オフシーズン対策



小谷村は柵池高原、白馬乗鞍温泉、白馬コルチナスキー場を擁し冬期はスキー客で賑わうものの、夏期になると観光客は減ってしまうため、村では40年ほど前から夏期を中心に地域の自然、体験などを利用したイベントを開催してきた。

2010年からは観光連盟で旅行業第2種を取得し、企画した体験ツアーを着地型旅行商品として販売を始めた。その体験ツアーの一つとして小谷村では、資源として砂防堰堤に着目し「ドボクアート砂防堰堤めぐりバスツアー」を企画した。砂防堰堤は防災を目的とした建造物ではあるが、他ではマネのできないツアーとなっている。朝早くから実施するため地域での宿泊客増が期待できる。

最少催行人員が10名で、催行回数も限られているため参加者数は年間40~50人と多くはない。しかし、砂防堰堤に着目した取り組みがユニークであり、写真もインパクトがあるものが撮れるため、さまざまな媒体で報道されて、村にとって大きな宣伝効果があった。



ツアーの様子

第二海堡

本格実施前に トライアルツアーを実施



第二海堡の全景

取り組みの概要

「明日の日本を支える観光ビジョン」の施策に位置づけられた「魅力ある公的施設・インフラの大胆な公開・開放」の取り組みに向けて、第二海堡上陸ツアーの早期実現を官民連携により推進することとなった。

2018年度は第二海堡上陸ツーリズム推進協議会を設立し、旅行会社から企画提案を募集し、トライアルツアーとして実施、延べ1,024名が参加した。課題を踏まえ、今後、本格的なツアーを実施していく。

POINT 1 第二海堡上陸ツーリズム 推進協議会の設立



上陸ツアーを実施するにあたり 2017年3月に関東地方整備局内で「第二海堡プロジェクトチーム」を発足。関係者を交えて現地調査、意見交換会を実施した。

2018年7月に第二海堡上陸ツーリズム推進協議会を発足し、第1回会議を開催した。国土交通省、海上保安庁、日本旅行業協会、全国旅行業協会、横須賀市、富津市等がメンバーとなって推進方法について協議した。

その後はトライアルツアーの実施に応募した旅行会社も参加しながら継続的に会議を開催し、プロジェクトを推進する母体となっている。

POINT 2 海事・軍事に詳しい ガイド役の発掘と育成



トライアルツアーの実施に応募した5社の旅行会社の内の1社は、以前から横須賀で運航している自社の船で、米海軍や海上自衛隊の戦艦を見る横須賀軍港めぐりや、かつて砲台が置かれた猿島をめぐる旅行商品を提供しており、周辺の海域に詳しく、また船や軍事の知識も豊富な人材がおり、この旅行会社が中心になってガイドを行うこととなった。

第二海堡に上陸してからの約1時間のガイドだけではなく、片道30分の船上では、東京湾を行き交う大型船舶のガイドを行ない、参加者を楽しませている。

今後、本格実施に向けて、旅行会社が中心となり「案内人を公募し育成するプログラム」を実施することとしており、インバウンドへの対応も視野に入れて取り組んでいる。

POINT 3 旅行事業者の利用調整



平日は海上災害防止センターが海上災害の訓練を行っていることが多く、そのための船が停泊しているために桟橋が使用できず上陸ツアーが開催できない場合がある。

ツアー実施日は土日祝日が主となり、実施できる日が限られることから、トライアルツアーでは調整会議により5つの旅行会社のツアー実施日を決めている。

次年度は第二海堡上陸ツーリズムの推進に関する連携協定者を募集することとしており、その事業者が中心となって、日程調整が行える仕組みとしていくことを検討している。



中央部砲塔観測台の見学

基本情報

【施設管理者】

国土交通省関東地方整備局 第三管区海上保安本部

【実施主体】

第二海堡上陸ツーリズム推進協議会

事務局：国土交通省 関東地方整備局港湾空港部
港湾計画課

〒231-8436 横浜市中区北仲通5-57 横浜第2合同庁舎
TEL 045-211-7416

■ 勘所で取り上げた事例の問い合わせ先一覧

都道府県	インフラ名称	勘所事例	問い合わせ先	電話
北海道	公共施設見学ツアー	P.28	北海道開発局	011-709-2311
青森県	津軽ダム	P.18, 23, 24	東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所	0172-85-3035
宮城県	(仮称)気仙沼湾横断橋工事	P.28	東北地方整備局 仙山河川国道事務所	022-248-4131
	鳴子ダム	P.18	東北地方整備局 鳴子ダム管理所	0229-82-2341
福島県・新潟県	国道 289 号八十里越	P.15, 29	北陸地方整備局 長岡国道事務所	0258-36-4551
栃木県	瀬西川ダム	P.23, 24, 27, 31	関東地方整備局 鬼怒川ダム統合管理事務所	028-661-1341
	川治ダム	P.17, 20, 22, 23		
	川俣ダム	P.15, 25		
群馬県	ハッ場ダム	P.14, 15, 19, 22	関東地方整備局 ハッ場ダム工事事務所	0279-82-2317
	矢木沢ダム	P.24, 30	独立行政法人水資源機構 沼田総合管理所	0278-24-5711
	下久保ダム	P.30	独立行政法人水資源機構 下久保ダム管理所	0274-52-2746
埼玉県	首都圏外郭放水路	P.14,17,19,22,27,30,31	関東地方整備局 江戸川河川事務所	04-7125-7311
千葉県	東京外かく環状道路	P.18	東日本高速道路株式会社 (NEXCO 東日本)	03-3506-0111
	第二海堡	P.25	関東地方整備局 港湾空港部港湾計画課	045-211-7416
神奈川県	宮ヶ瀬ダム	P.19, 20	関東地方整備局 相模川水系広域ダム管理事務所	046-281-6911
富山県	立山カルデラ砂防博物館	P.25	富山県立山カルデラ砂防博物館	076-481-1160
長野県	小谷村砂防堰堤群	P.16	小谷村観光連盟	0261-82-2233
	駒ヶ根高原砂防フィールドミュージアム	P.22	中部地方整備局 天竜川上流河川事務所	0265-81-6411
京都府	天ヶ瀬ダム	P.15, 19, 28	近畿地方整備局 淀川ダム統合管理事務所	072-856-3131
	三栢開門	P.29	近畿地方整備局 淀川河川事務所	072-843-2861
兵庫県	明石海峡大橋	P.14, 17, 25, 31	本州四国連絡高速道路株式会社	078-291-1033
鳥取県	尾原ダム	P.18, 27	中国地方整備局 出雲河川事務所	0853-21-1850
広島県	防災体験施設	P.16	中国地方整備局 中国技術事務所	082-822-2340
	国道185号休山トンネル		中国地方整備局 広島国道事務所	082-281-4131
山口県・福岡県	関門橋	P.14	西日本高速道路株式会社 (NEXCO 西日本)	06-6344-4000
高知県	横瀬川ダム	P.15, 17	四国地方整備局 中筋川総合開発工事事務所	0880-66-0142
沖縄県	漢那ダム	P.15, 29	沖縄総合事務局 北部ダム統合管理事務所	0980-53-2442
	やんばる9ダム	P.30		

インフラツーリズム拡大の手引き -試行版-

編集 国土交通省 総合政策局

発刊日 2019年3月

問い合わせはこちらまで

国土交通省 総合政策局 公共事業企画調整課

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3 (代表電話)03-5253-8111

インフラツーリズムポータルサイト

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/region/infratourism/index.html>

